

参考資料

男女共同参画と女性活躍推進に関する市民アンケート 調査概要

1. 目的

第3次島原市男女共同参画計画の策定にあたり、市民の意識や考え方について現状を把握し、計画に反映させる。

2. 実施時期

令和元年8月

3. 調査方法

住民基本台帳より市内在住の20歳以上の男女3,000人を無作為抽出(年代別、地区別)し、郵送にて配付、回収。

4. 留意事項

- 比率は全て百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このため百分率の計が100%にならないことがある。
- 基礎となる実数はnとして掲載した。その比率は件数を100%として算出した。
- 1人の回答者が複数回答を行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。

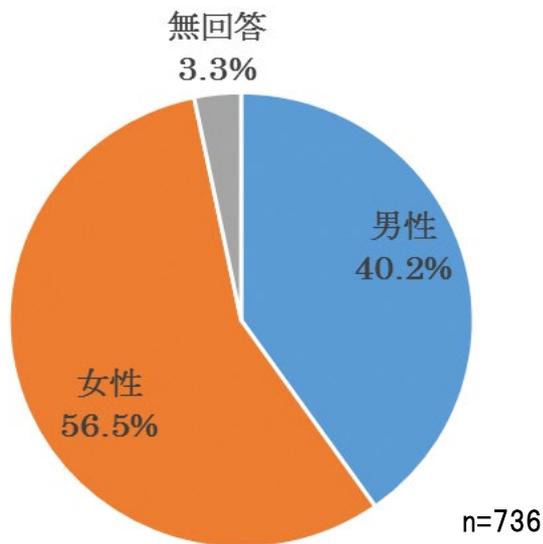
5. 回収状況

男性	296人	}	計 736人(回収率 24.5%)
女性	416人		
不明	24人		

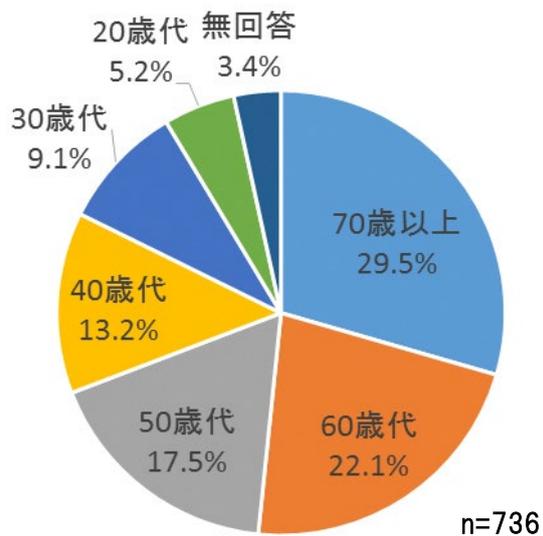
あなた自身の事について、お尋ねします。(回答者の属性)

<年齢・性別>

- ・回答者は男性が約 4 割、女性が 6 割となっている。
- ・年齢は、60 歳以上の回答者が約 5 割強であり、40 歳以上でみると約 8 割となる。



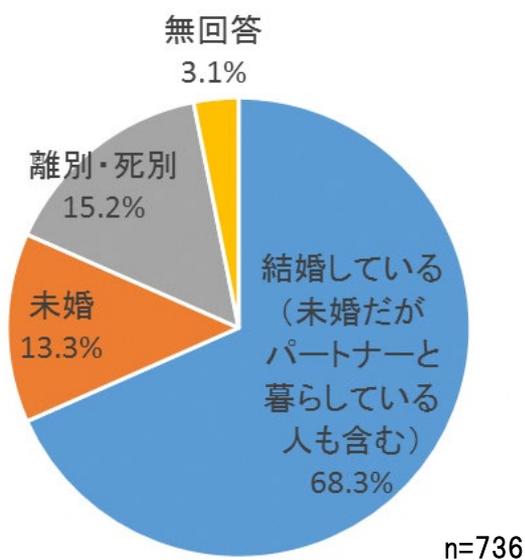
<性別>



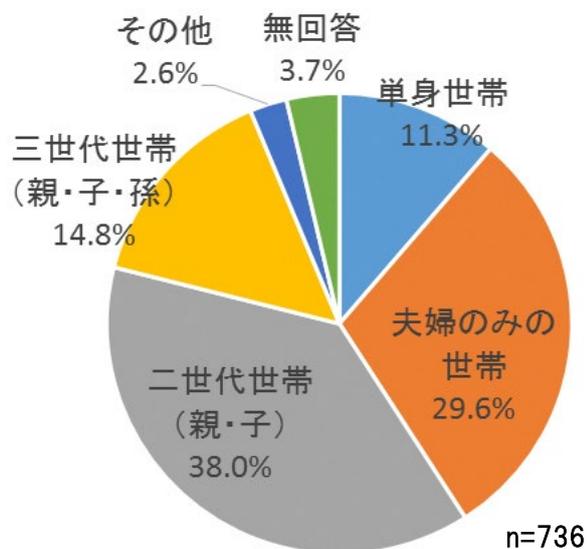
<年齢>

<結婚の有無・世帯構成>

- ・回答者の約 7 割は結婚をしている、もしくはパートナーと暮らしている。
- ・世帯構成は 2 世代世帯が約 4 割と最も多く、次いで夫婦のみの世帯が約 3 割である。
- ・世帯構成の「その他」は、グループホームや、4 世代世帯、兄弟姉妹と暮らしている等



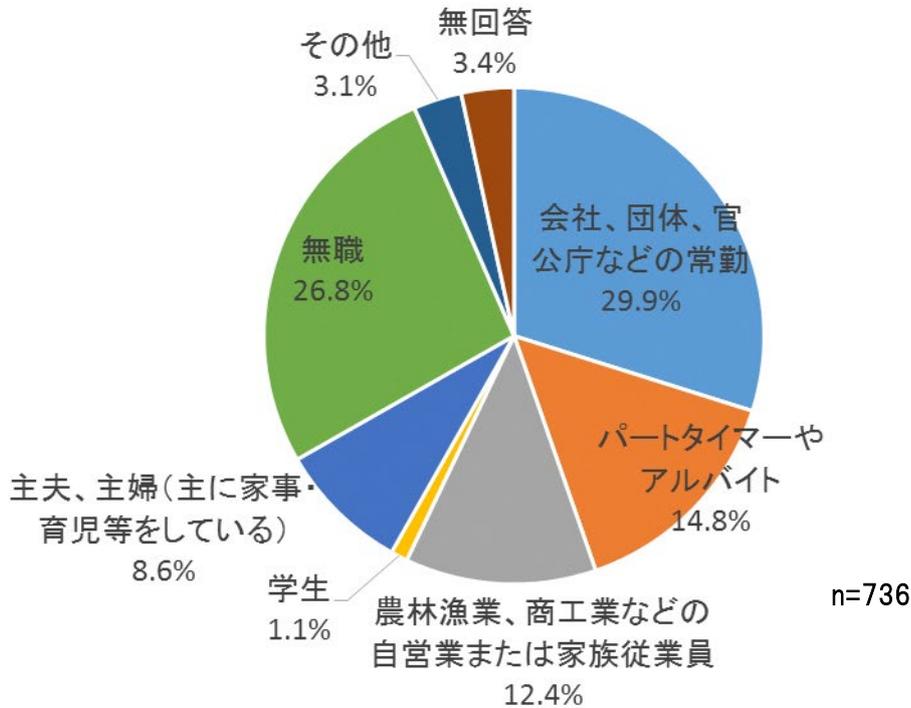
<結婚の有無>



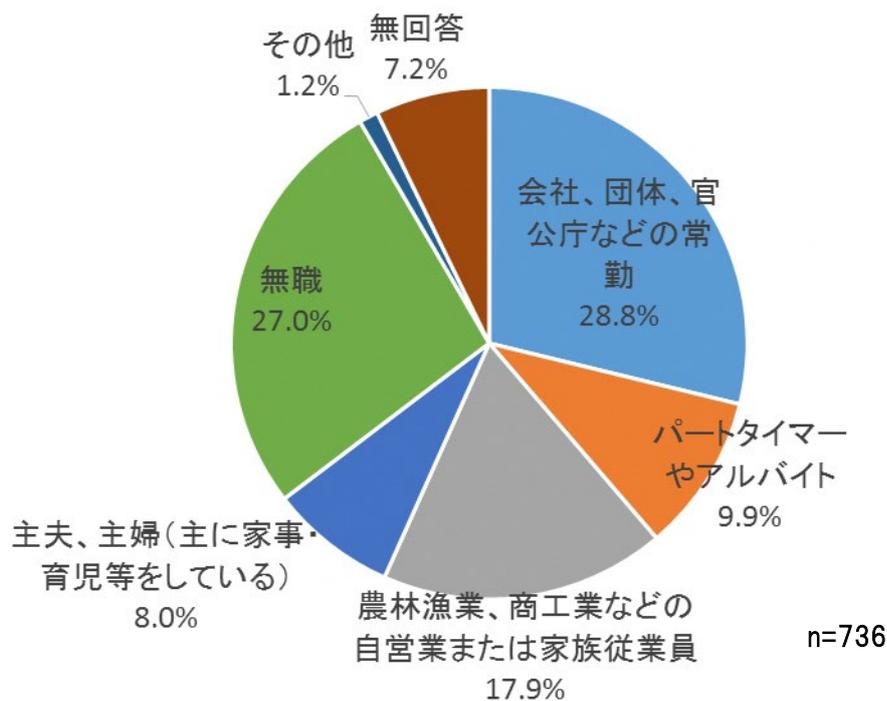
<世帯構成>

＜回答者の職業・配偶者の職業(結婚している(パートナーがいる)と回答した人のみ＞

・回答者の職業及び配偶者の職業ともに、会社、団体、官公庁などの常勤が最も多く、次いで無職、パートやアルバイトの順になっている。



＜回答者の職業＞



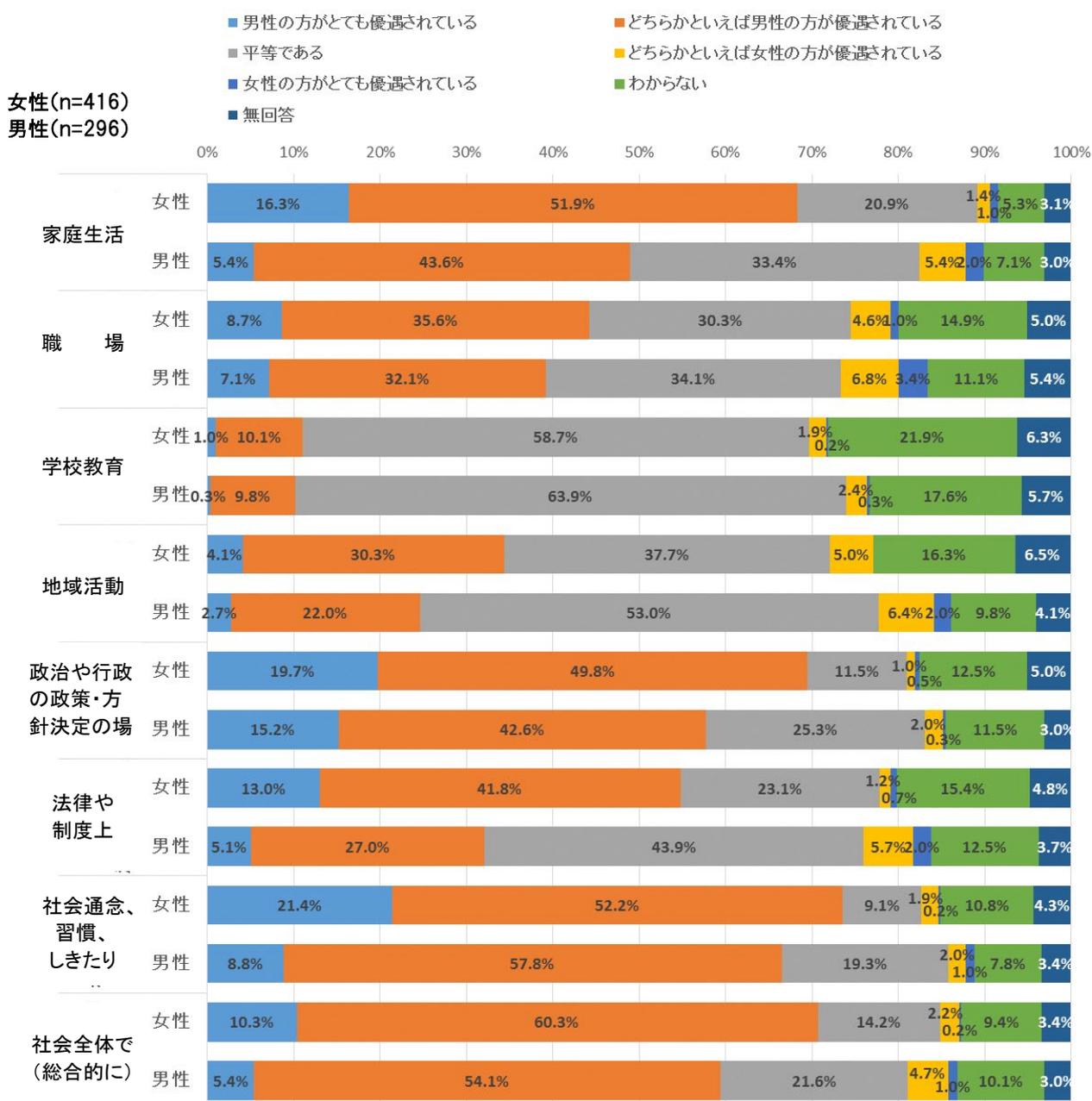
＜配偶者の職業＞

■男女共同参画・女性活躍推進について、あなたの考えをお尋ねします。

1. 男女平等について

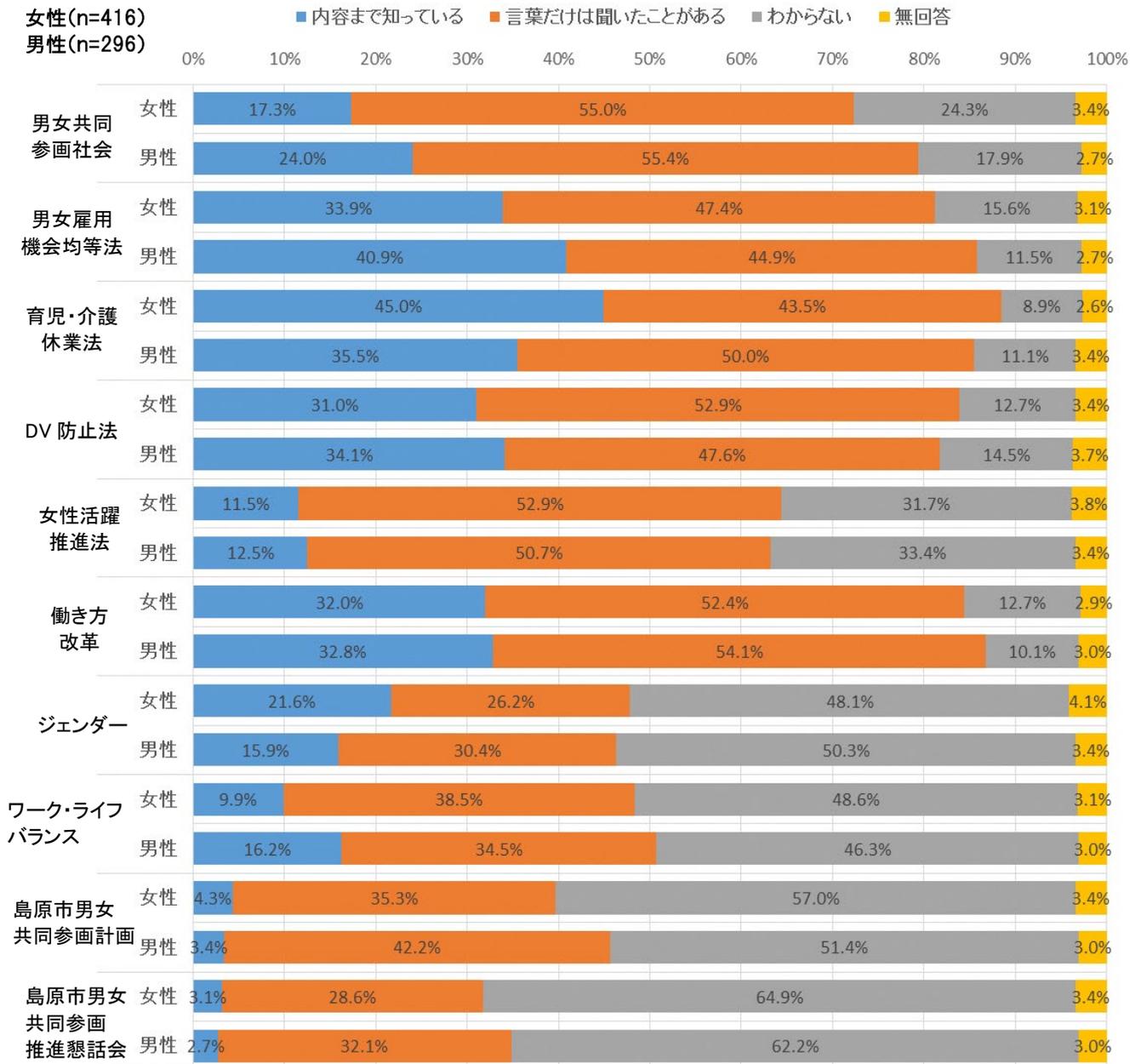
問1 あなたは家庭生活など様々な分野において、男女は平等になっていると思いますか。

家庭生活や法律や制度上、社会通念・習慣・しきたりの分野においては、男女の回答に差異があり、女性の方が「男性の方が優遇されている」と答える割合が高く、また、男性の方が「平等である」と答える割合が高い。



問2 あなたは男女共同参画社会など、次にあげる言葉を知っていますか。

概ね男性の方が内容を理解している結果となっているが、「育児介護休業法」「ジェンダー」については、女性の方が高くなっている。

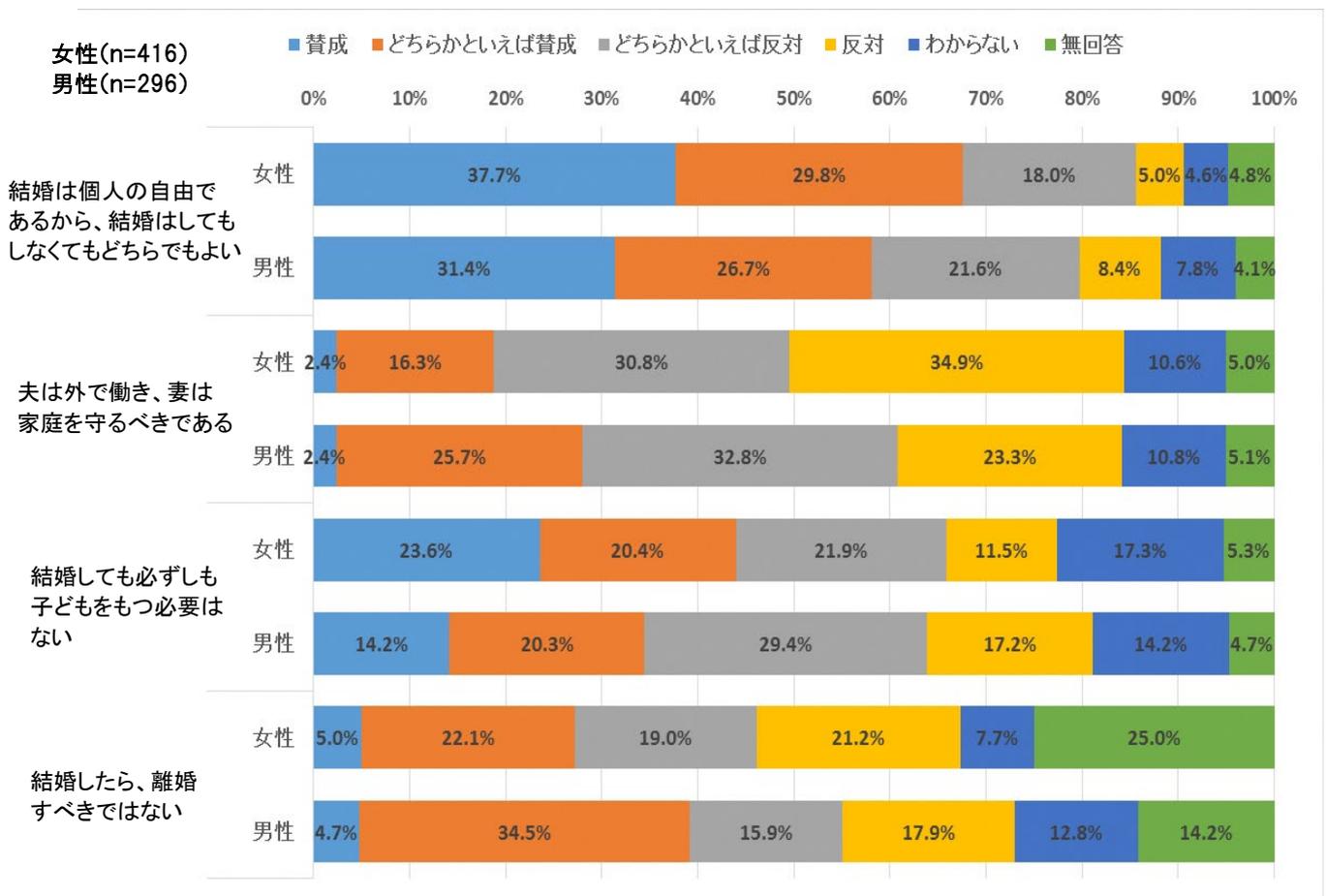


2. 結婚・子ども・家庭生活について

問3 結婚や家庭生活に関連した次の事項について、どう思いますか。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という問いについては、男性の方が「どちらかといえば賛成」と答える人が多く、女性は「反対」と答える人が多い結果となった。

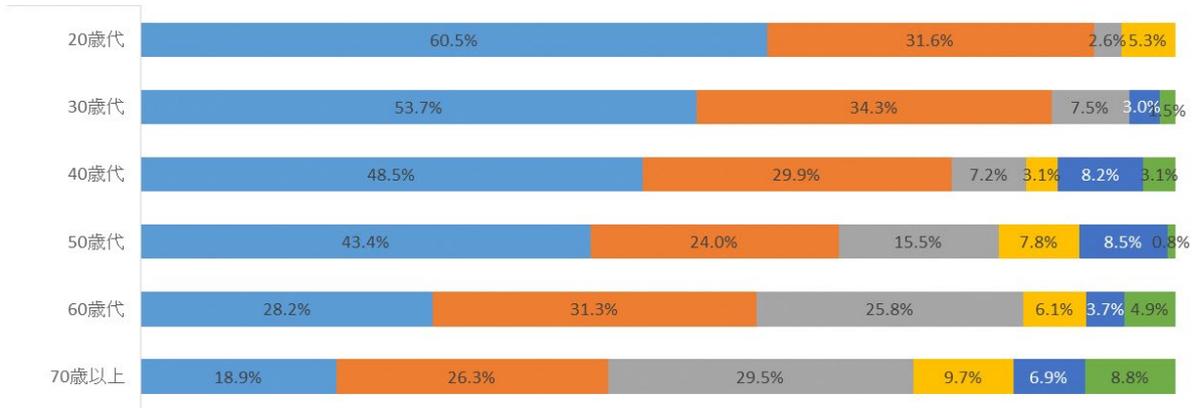
「結婚したら離婚するべきではない」の質問については、男性は「どちらかといえば賛成」が34.5%と女性の22.1%より高くなっている。



女性(n=416)
男性(n=296)

結婚は個人の自由であるから、結婚はしてもなくてもどちらでもよい

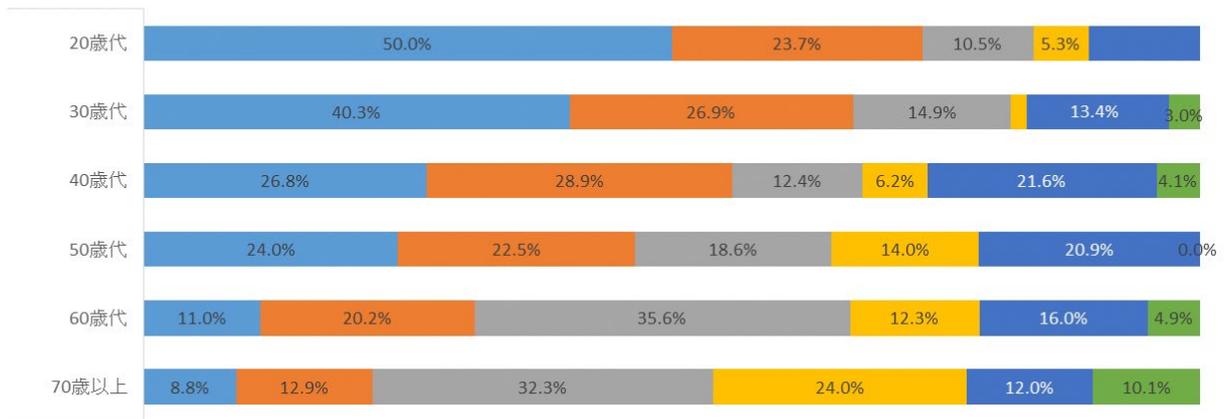
■賛成 ■どちらかといえば賛成 ■どちらかといえば反対 ■反対 ■わからない ■無回答



女性(n=416)
男性(n=296)

結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

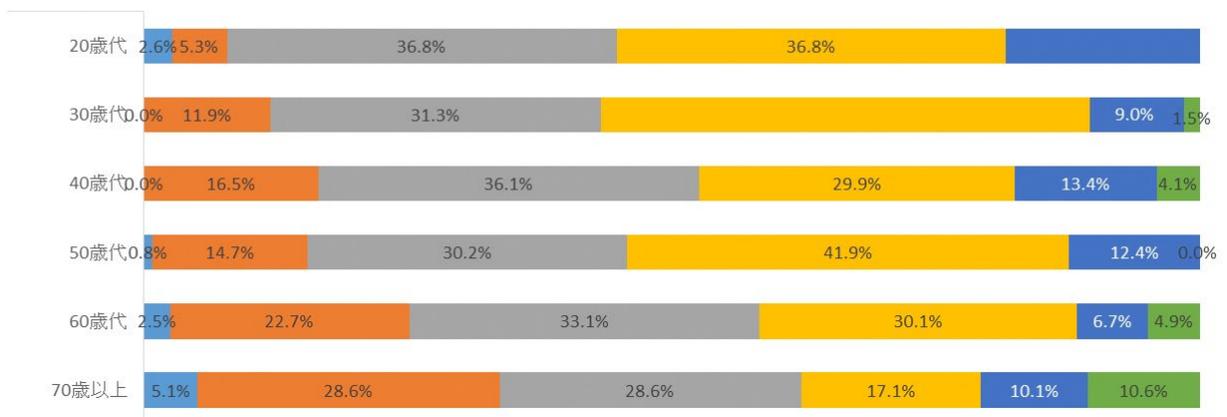
■賛成 ■どちらかといえば賛成 ■どちらかといえば反対 ■反対 ■わからない ■無回答



女性(n=416)
男性(n=296)

夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

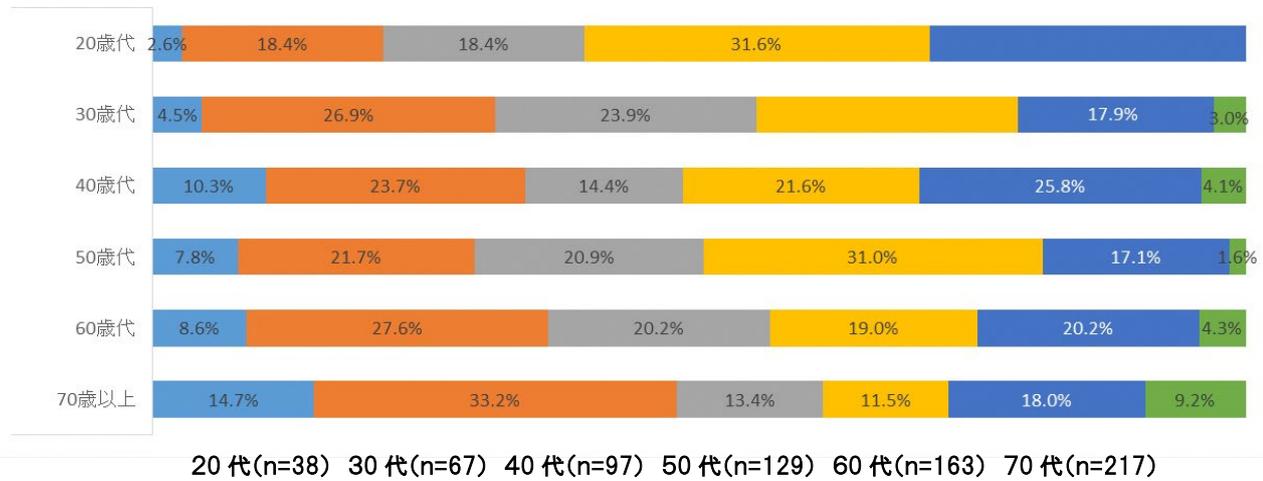
■賛成 ■どちらかといえば賛成 ■どちらかといえば反対 ■反対 ■わからない ■無回答



女性(n=416)
男性(n=296)

結婚したら、離婚すべきではない

■ 賛成 ■ どちらかといえば賛成 ■ どちらかといえば反対 ■ 反対 ■ わからない ■ 無回答

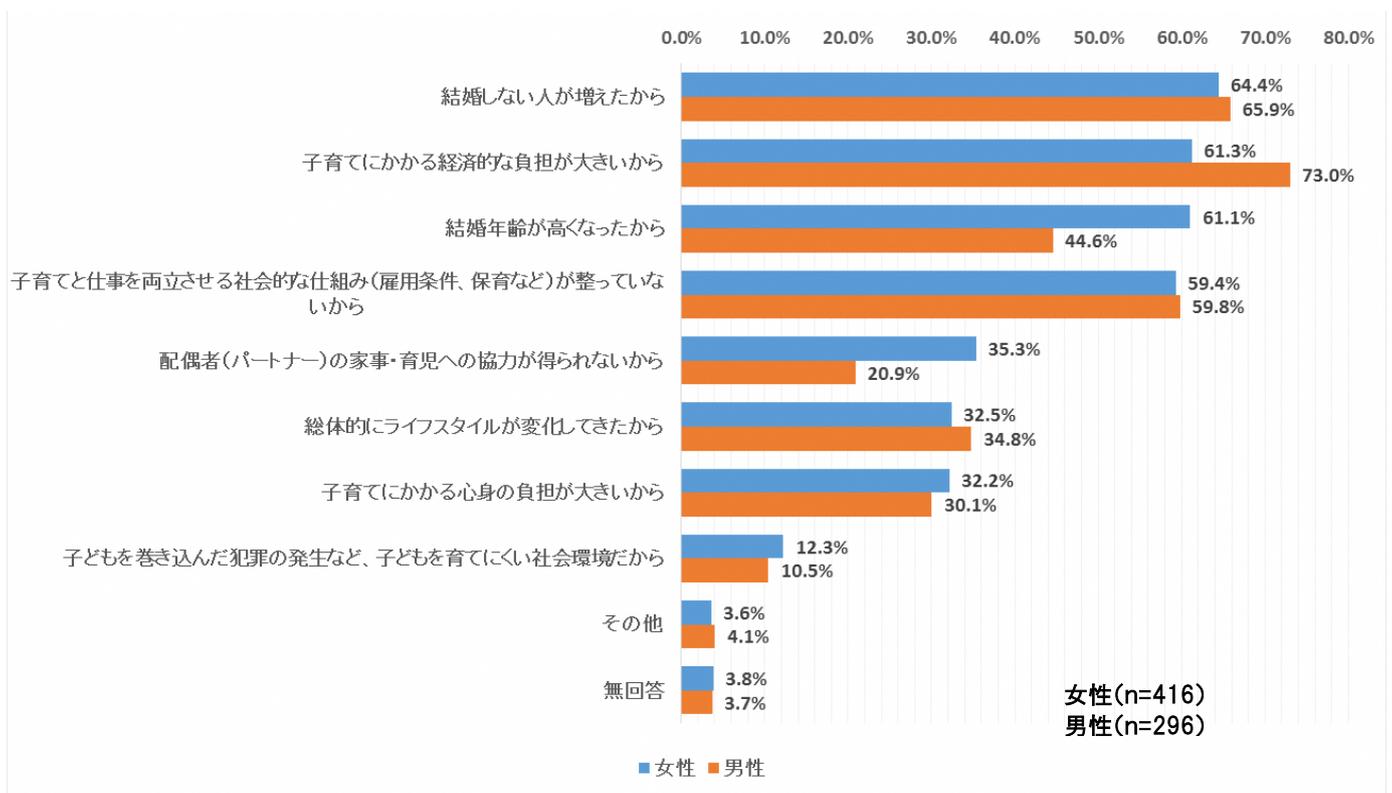


問4 近年生まれてくる子どもの数が少なくなっていますが、その原因についてどう思いますか。（複数回答）

女性は「結婚しない人が増えたから」という回答が最も多く、男性は、「子育てにかかる経済的な負担が大きいから」との回答が最も多い。

「結婚年齢が高くなったから」という回答については、女性は約60%であったが、男性は約45%と男女で回答に差異があることが分かる。

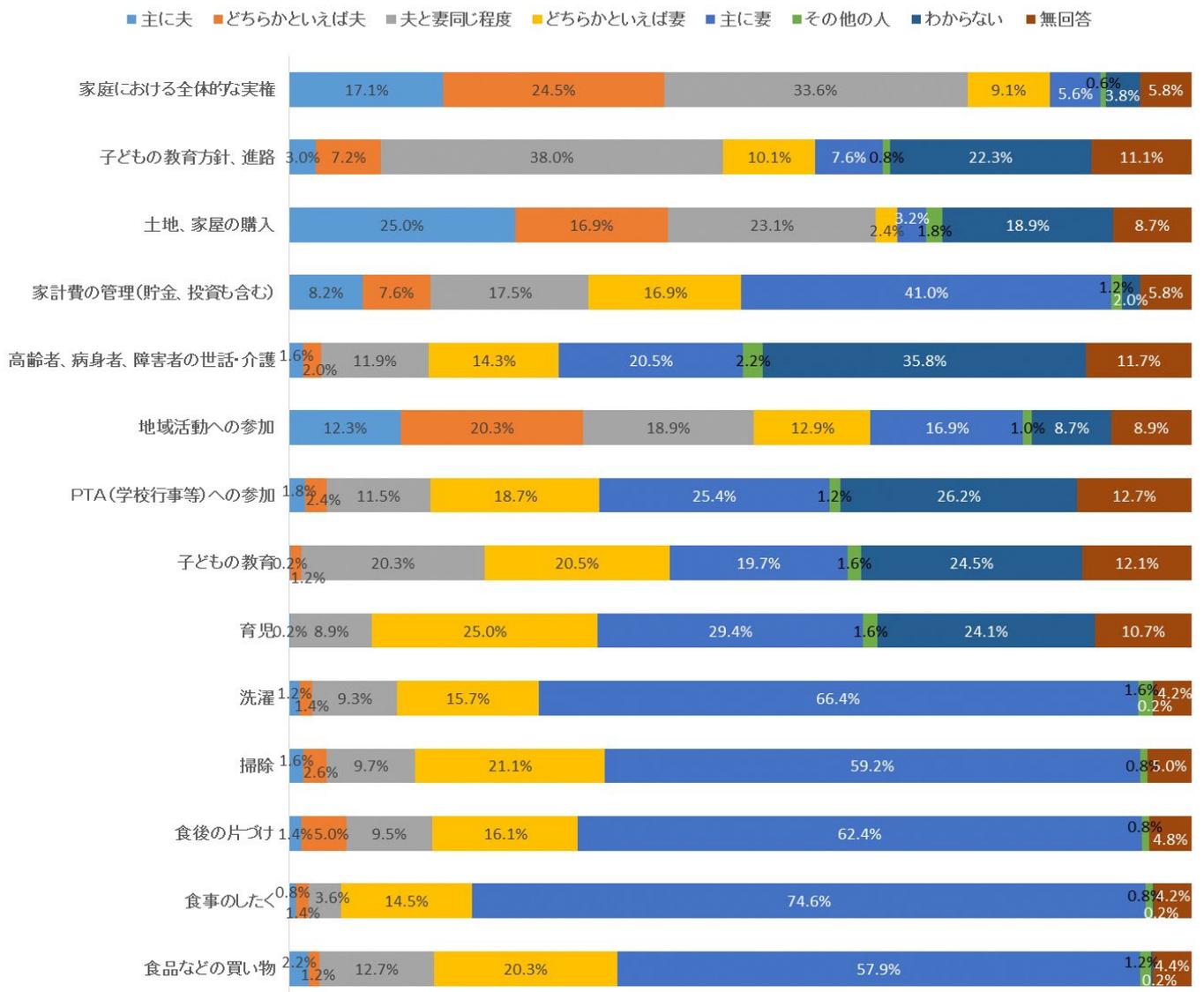
また、「配偶者の家事・育児への協力が得られないから」という回答について、女性は約35%の回答であったが、男性は約20%と男女の回答に差異があることが分かる。



問5 結婚している人(パートナーと暮らしている人)にお尋ねします。 あなたの家庭では家事の分担をどうしていますか。

家庭における全体的な実権については、「夫」「どちらかといえば夫」という回答が 43.7% であり、「夫と妻同じ程度」という回答が 35.6%という結果になった。

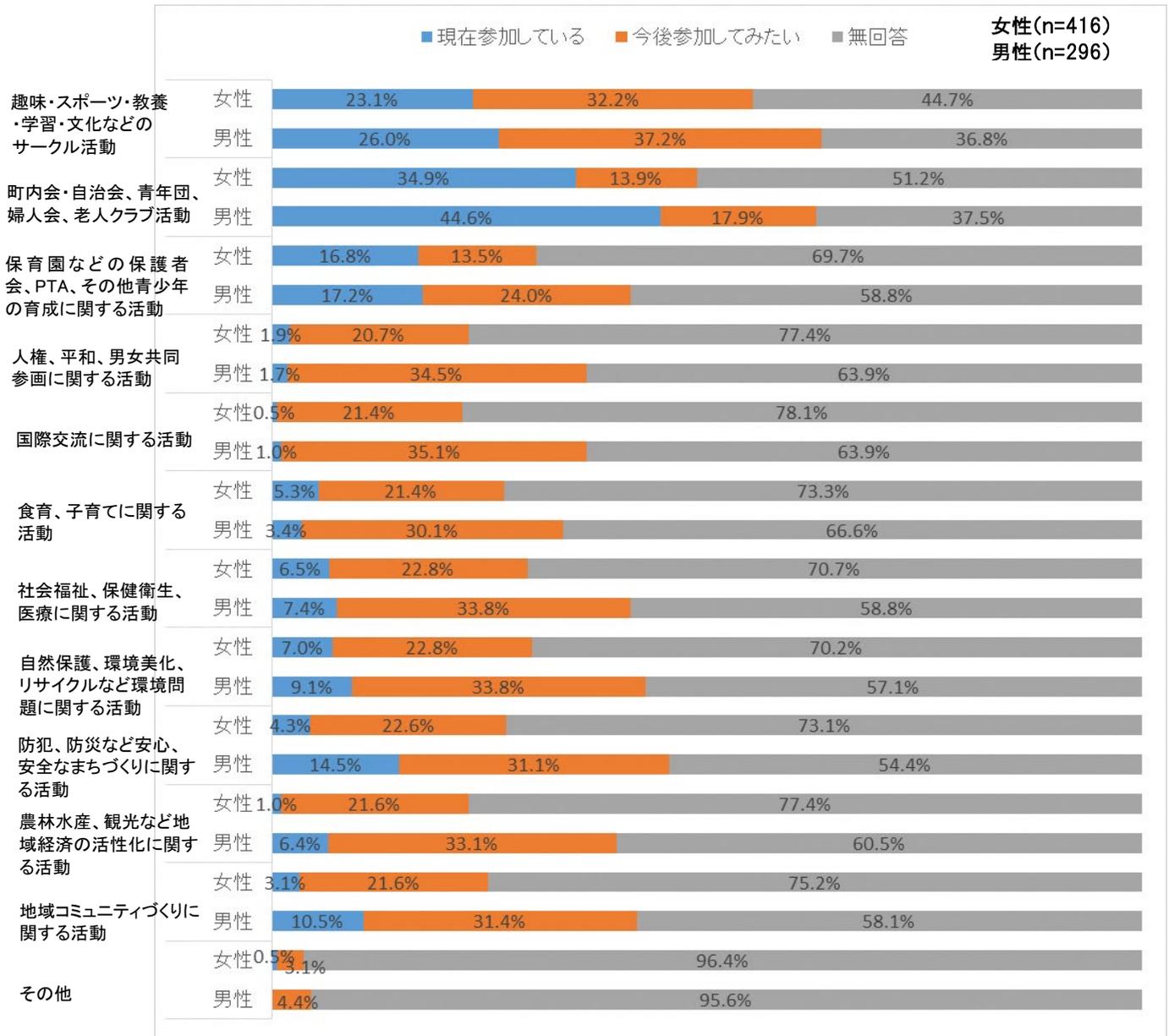
洗濯、掃除、食後の片づけ、食事の支度、食料品の買い物については、約 70%以上の人が「妻」「どちらかといえば妻」と答える結果となった。



n=503

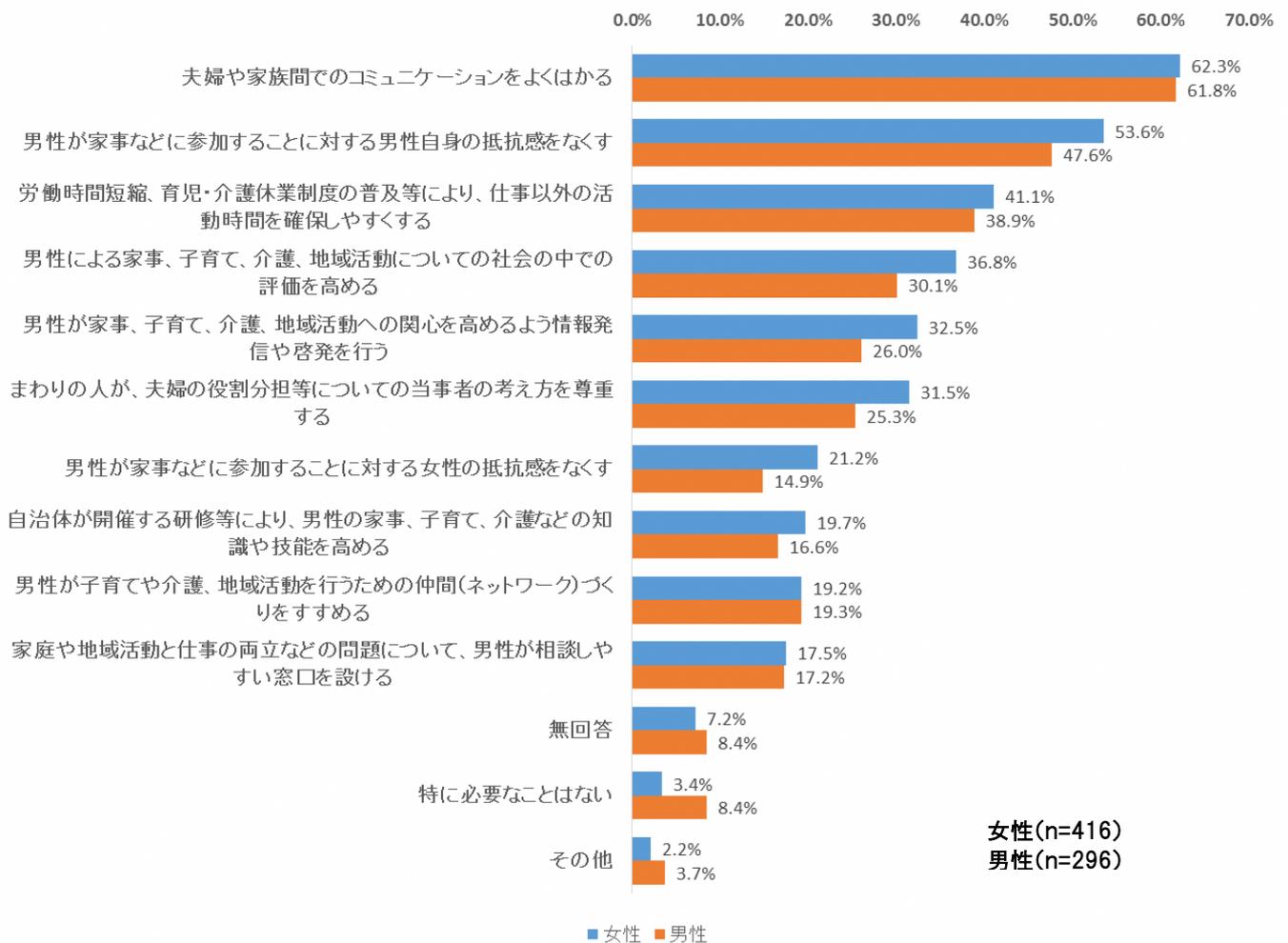
問6 あなたは地域社会において、現在どのような活動に参加していますか。また、今後どのような活動に参加してみたいですか。

「趣味・スポーツ・教養・学習・文化などのサークル活動」、「町内会・自治会、青年団、婦人会、老人クラブ連合会」については、現在参加している、今後参加してみたいという回答が多かった。



問7 あなたは男女が共に家事、育児、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(複数回答)

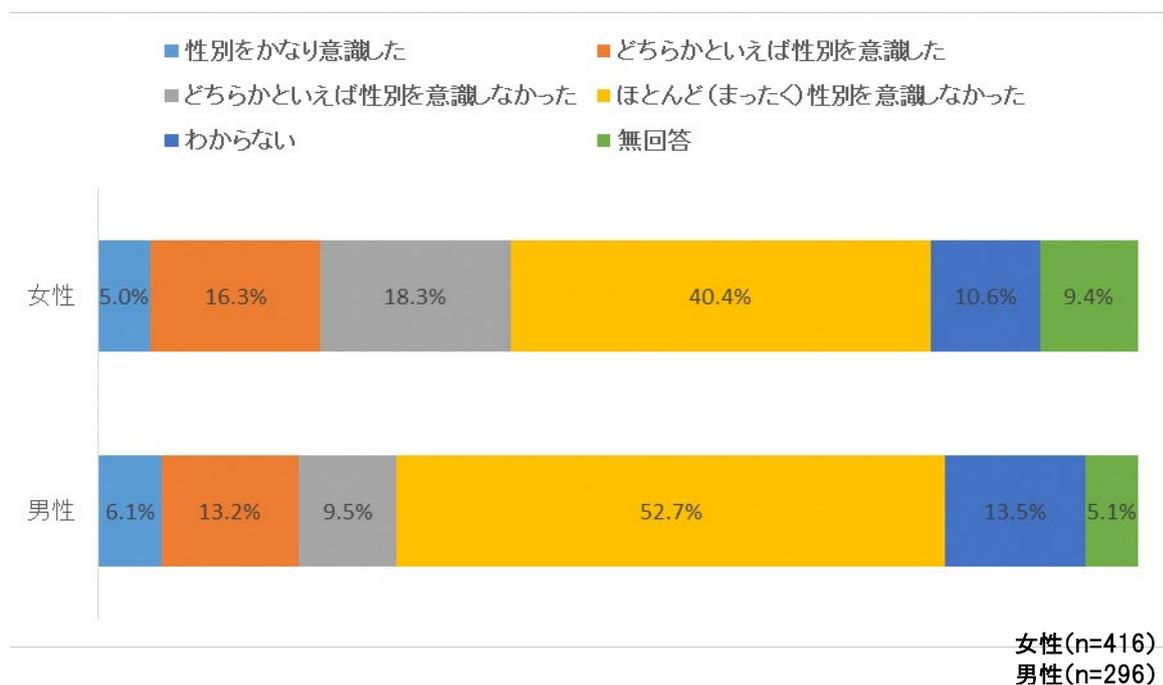
男女ともに、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が約60%と最も高く、次いで、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」の順になっている。



2. 就労、ワーク・ライフ・バランスについて

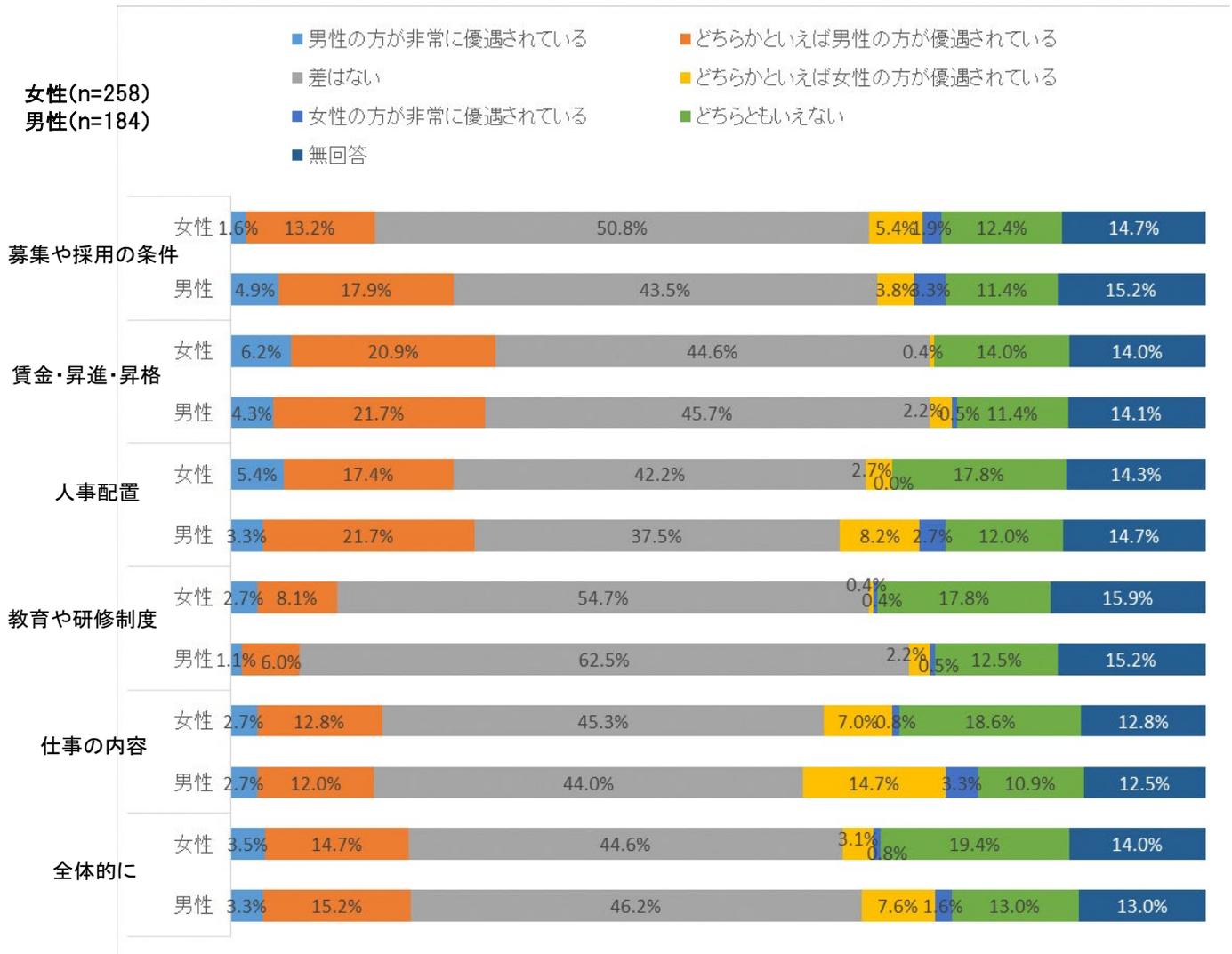
問8 あなたは進路や職業を選択する際に、性別を意識しましたか。

男女ともに、「性別を意識した」「どちらかといえば意識した」と回答したのは約 20%であり「ほとんど意識しなかった」「どちらかといえば意識しなかった」と回答したのは約 60%と男女間の差異はほとんど見られなかった。



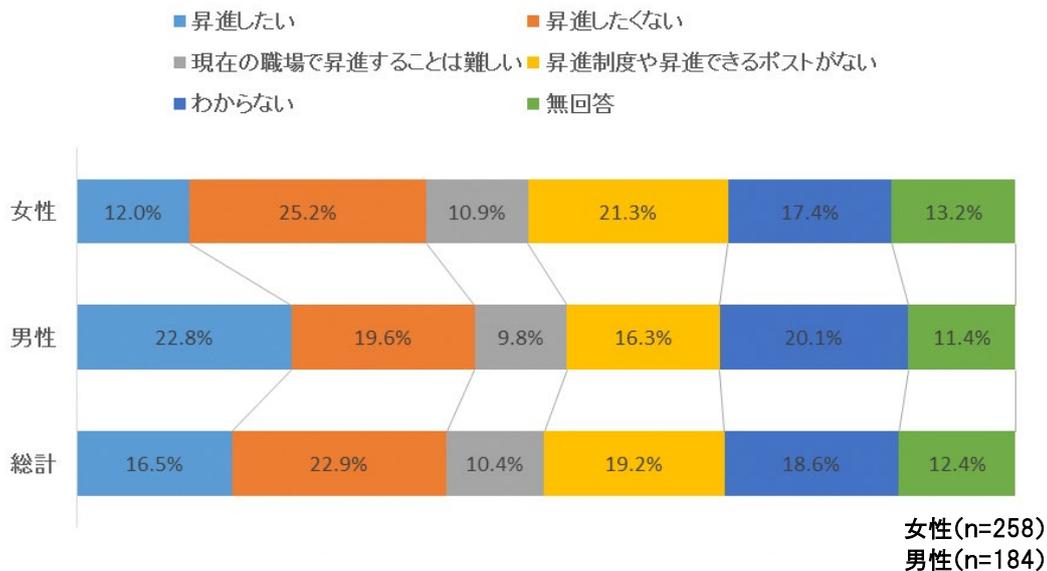
問9 現在働いている人にお尋ねします。
あなたの職場では、募集や採用の条件など様々な面で、性別によって
差があると思いますか

人事配置、仕事の内容について、男性の方が女性より「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と答える割合が高い結果となった。



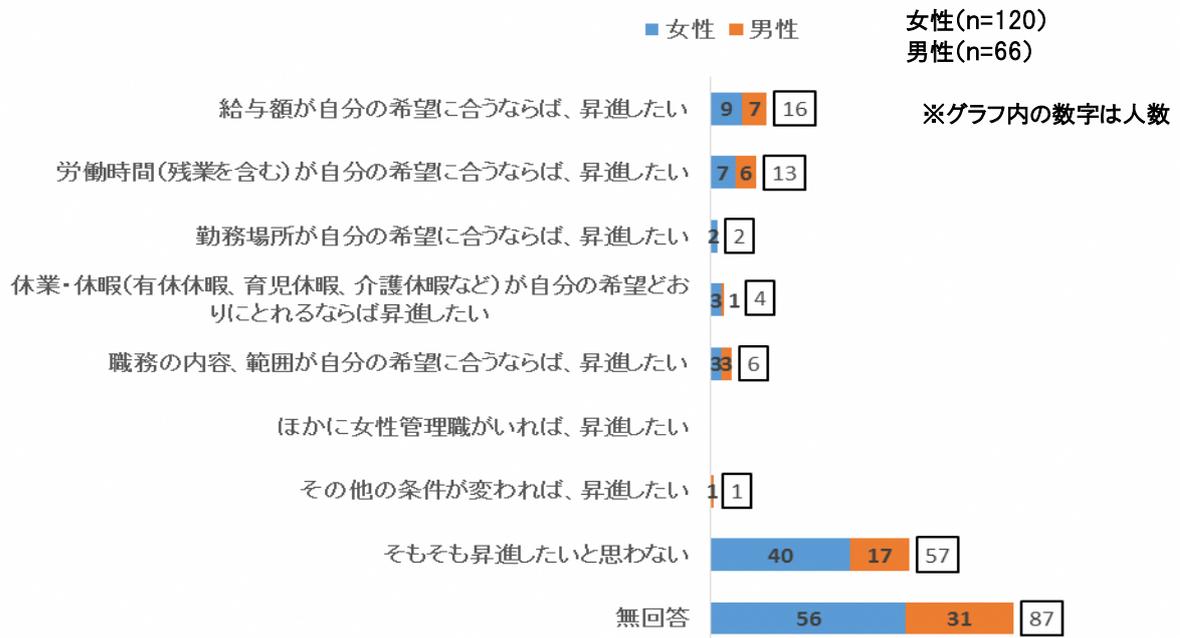
問10 現在働いている人にお尋ねします。
あなたは現在の職場で、昇進(非正社員の方が正社員に登用されることも含む)したいと思いますか。

女性より、男性の方が「昇進したい」と回答する割合が高いことが分かる。また、女性の方が「昇進制度や昇進できるポストがない」と回答する割合が高い。



問10-1 問10で「昇進したくない」「現在の職場では昇進することは難しい」と回答した方にお尋ねします。
条件が合えば、現在の職場で昇進したいと思いますか。

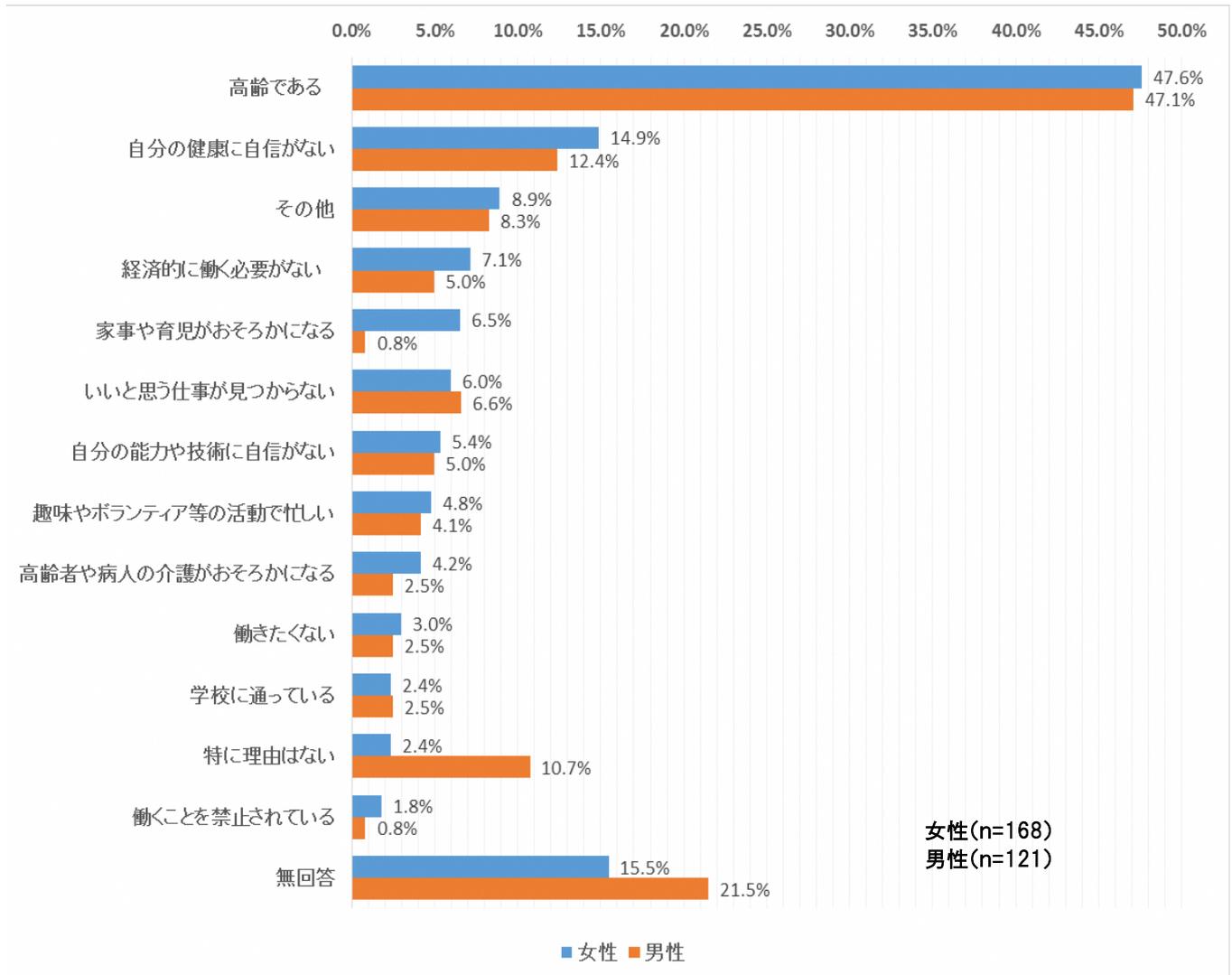
男女とも「そもそも昇進したいと思わない」という回答がほとんどである



問11 現在働いていない人にお尋ねします。 あなたが働いていない理由に近いのはどれですか(2 つまで)

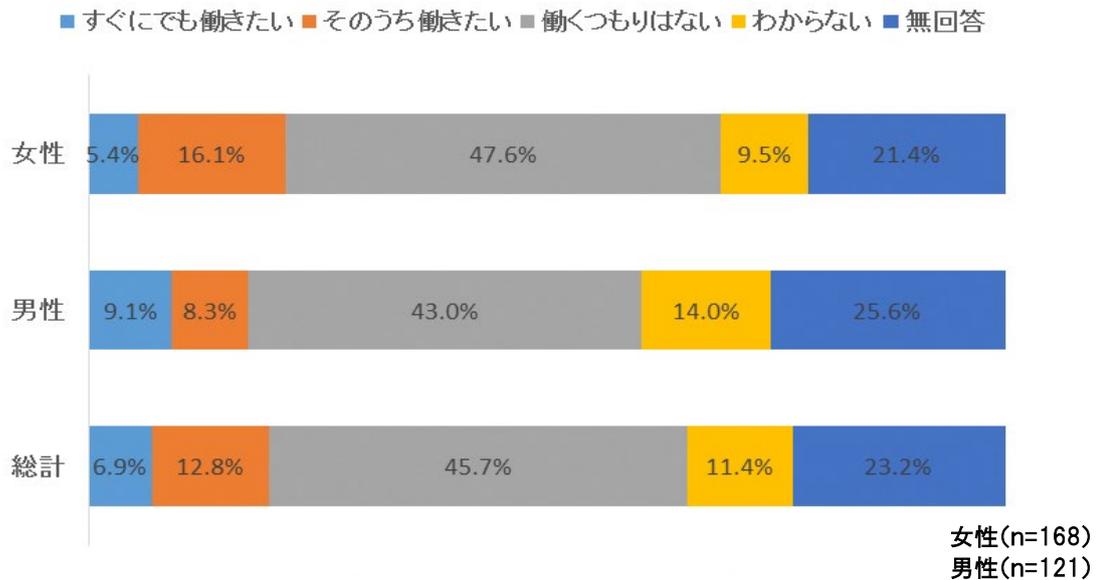
回答者の属性から、高齢であるという理由が最も高かった。

家事や育児がおそろかになるという回答については、女性が6.5%、男性が0.8%となっており、男女間で差異が出ている。



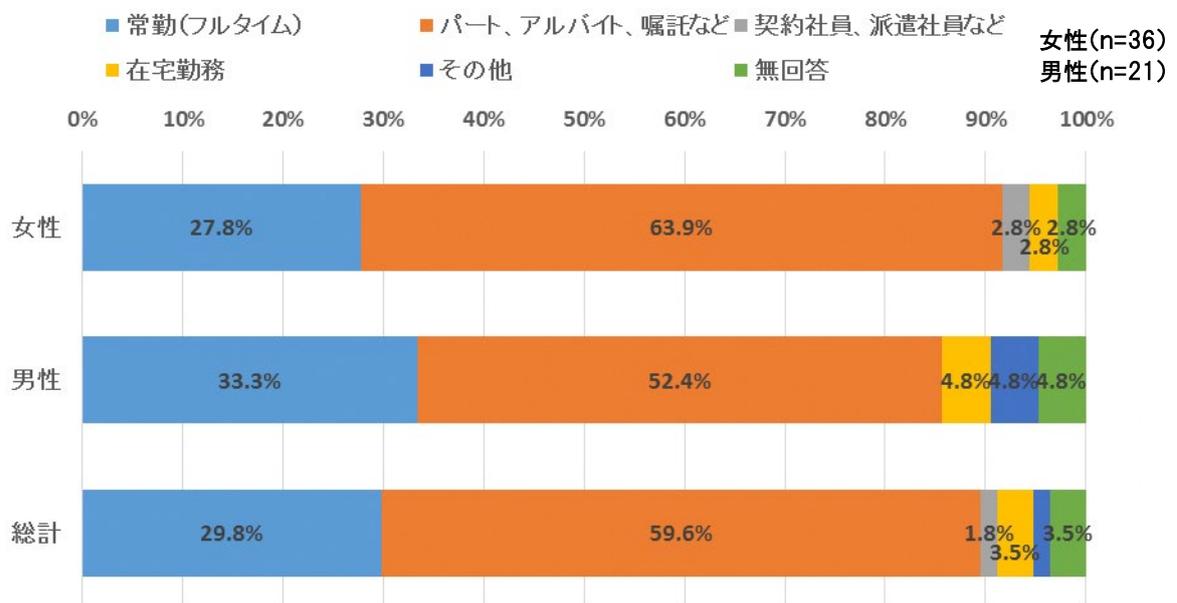
**問12 現在働いていない人にお尋ねします。
あなたは今後、働きたいと思いますか。**

男性の方が「すぐにでも働きたい」と回答する割合が高い
「すぐにでも働きたい」「そのうち働きたい」と合わせると、女性の方が高くなっている。



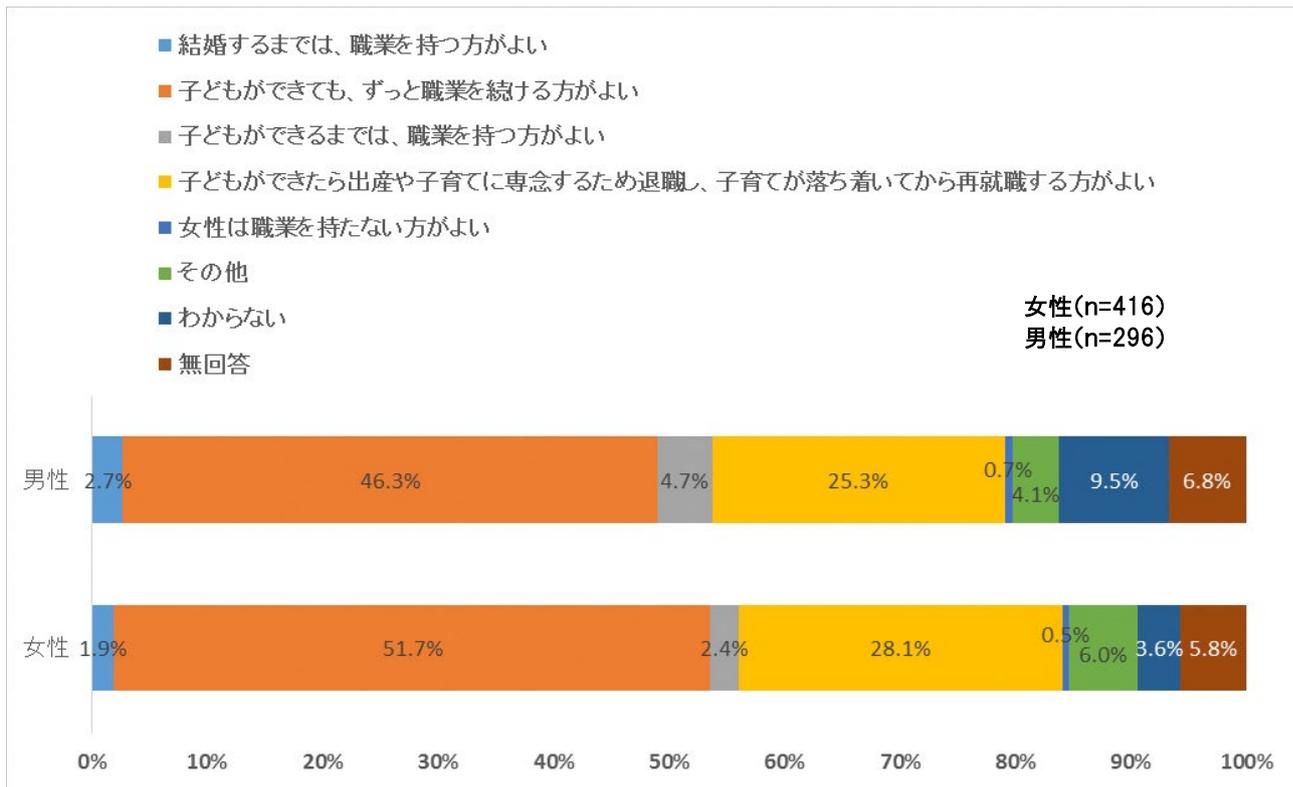
**問12-1 問12で「すぐにでも働きたい」「そのうち働きたい」を選んだ方にお尋ねします。
あなたはどのような形で働きたいですか。**

男女ともに、パート・アルバイト・嘱託などの雇用形態と回答する割合が高く、次いで常勤(フルタイム)の順となっている。



問13 あなたは一般的に女性が職業をもつことについて、どう考えますか。

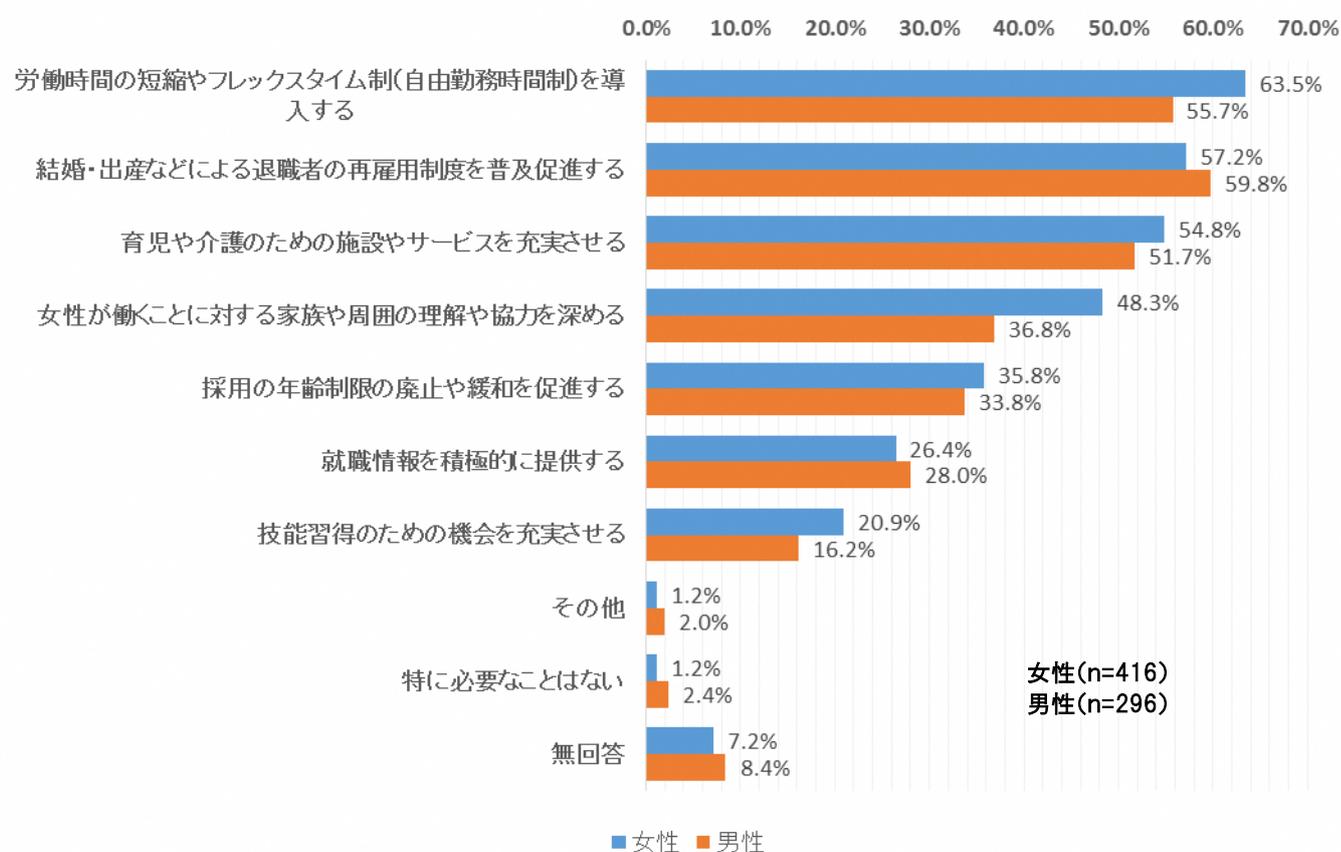
男女ともに、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が約 50%と最も高く、次いで「子どもができたなら出産や子育てに専念するため退職し、子育てが落ち着いてから再就職する方がよい」が約 30%となっている。



問14 女性が出産や子育てに専念するために退職し、落ち着いた後、再就職を希望する場合、再就職のためにはどんなことが必要だと思いますか。 (複数回答)

女性では、「労働時間の短縮やフレックスタイム制を導入する」が最も高く、次いで、「結婚・出産等による退職者の再雇用制度を普及促進する」の順になっており、男性では、その順序が逆になっている。

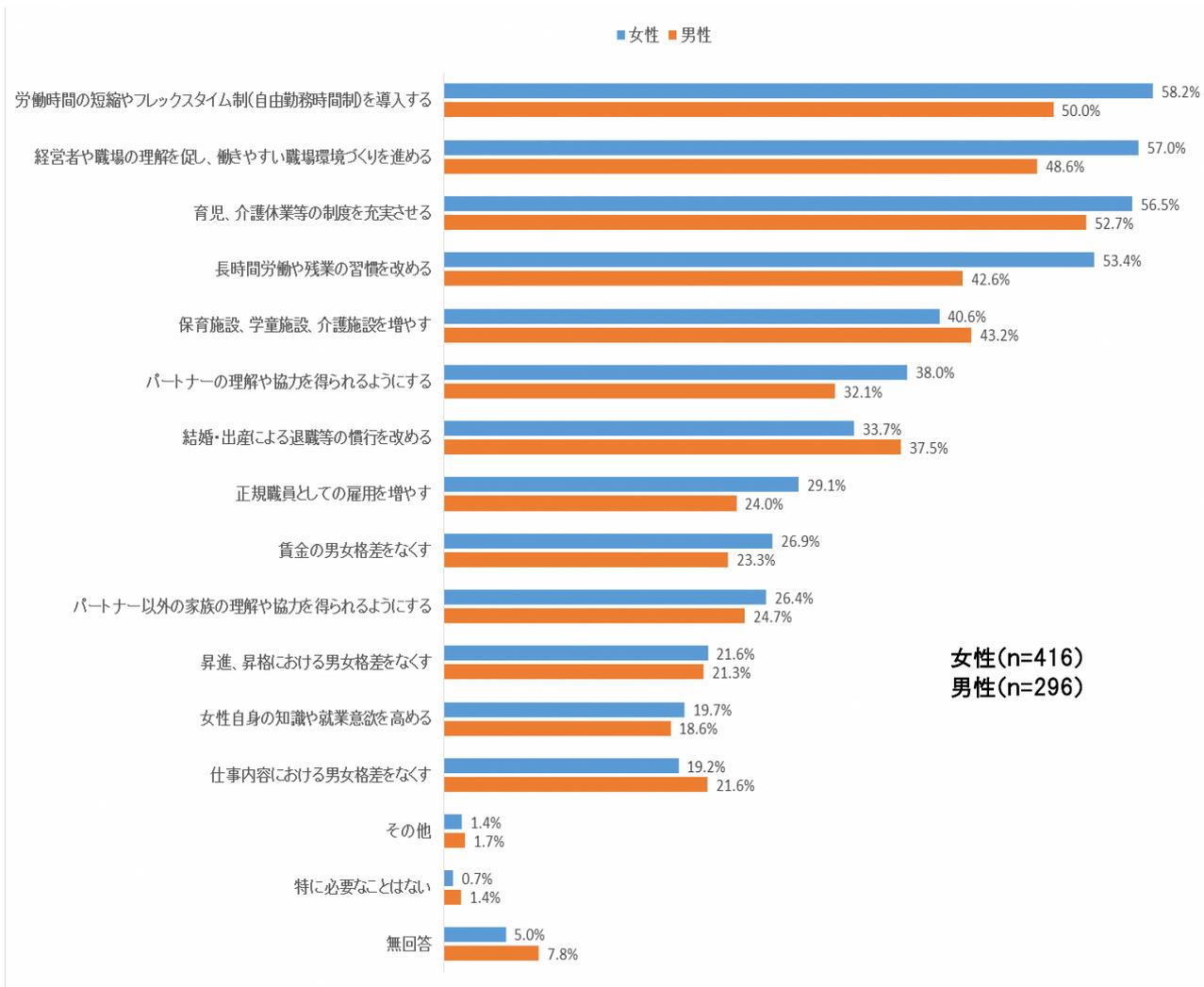
「女性が働くことに対する家族や周囲の理解や協力を深める」の回答については、女性が48.3%の回答に対して、男性は36.8%であり、男女間の差異がある。



問15 女性が出産や子育てにより退職することなく、継続して働くには、どのような事が必要だと思いますか。（複数回答）

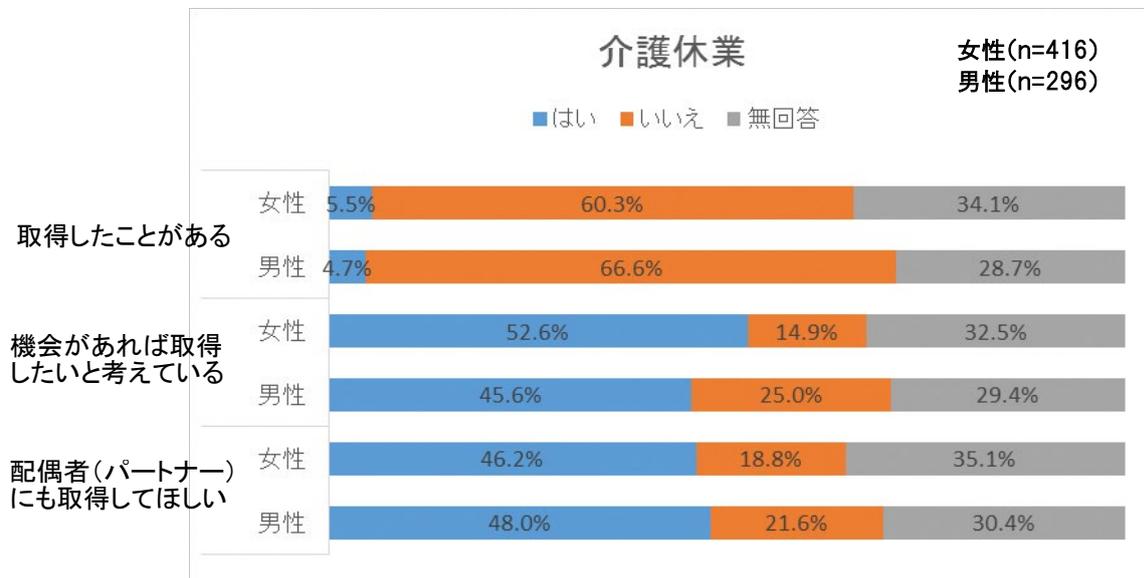
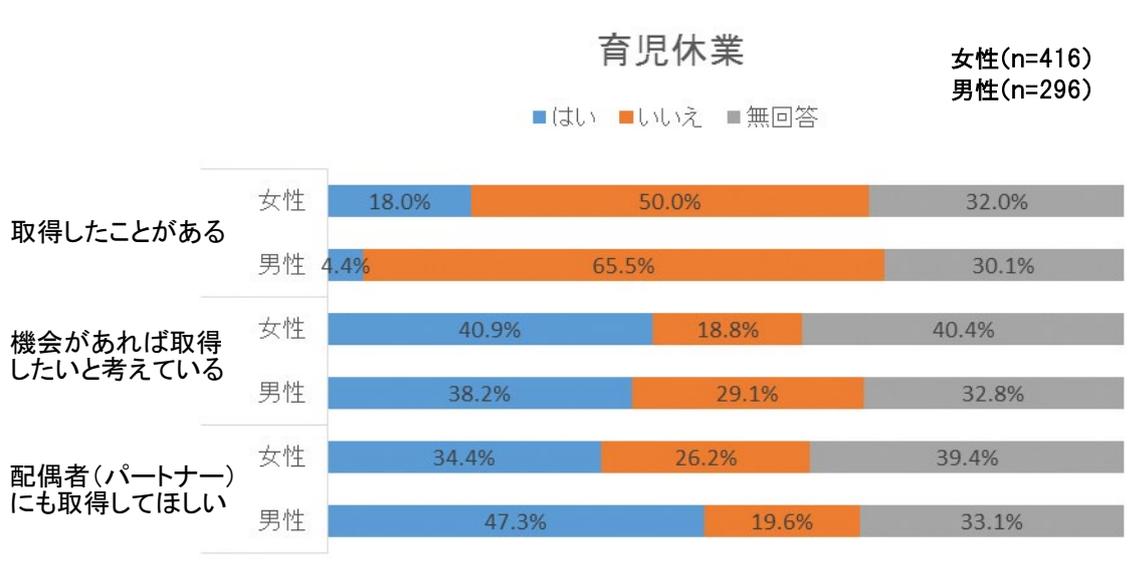
女性では「労働時間の短縮やフレックスタイム制を導入する」が58.2%で最も高く、次いで「経営者や職場の理解を促し、働きやすい環境づくりを進める」が57%、「育児、介護休暇などの制度を充実させる」が56.5%の順になっている。

男性も上位3つは同じだが、「育児、介護休業などの制度を充実させる」が最も高い。



問16 「育児休業」「介護休業」は男女の区別なく取得できますが、取得に関する次の事についてお答えください。

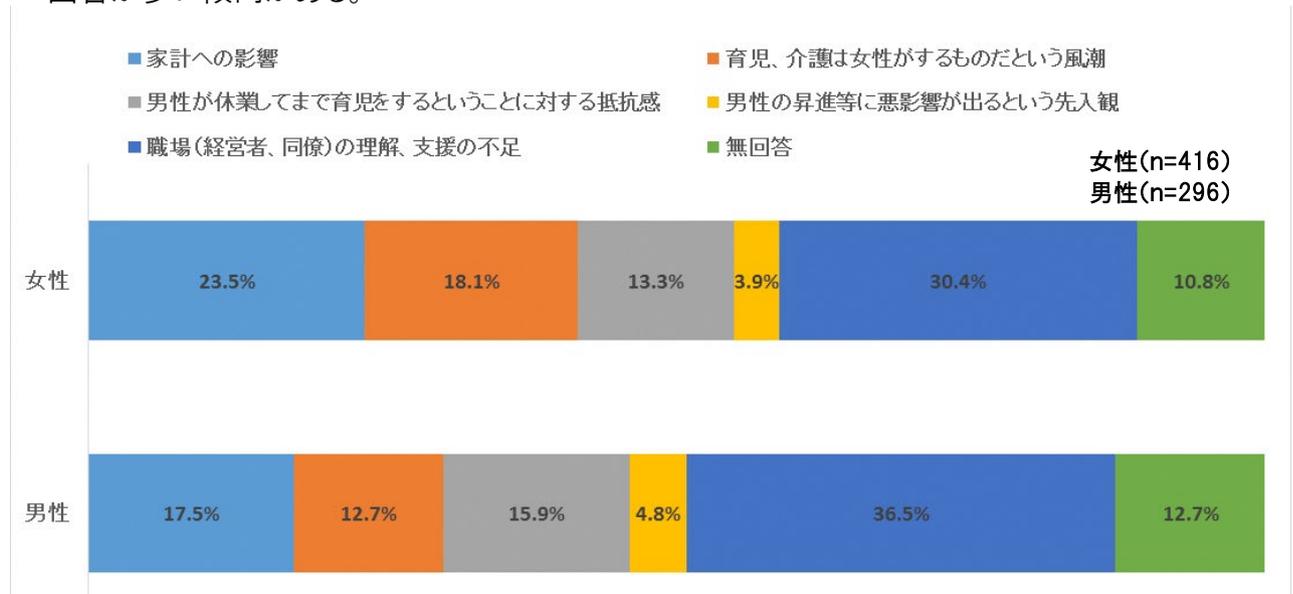
育児休業については女性の方が男性より「取得したことがある」という回答が多かった。
介護休業は男女ともに「取得したことがある」と回答した人は少なかった。



問17 男性の「育児休業」「介護休業」取得が進まない現状がありますが、その最も大きな理由は何だと思いますか。

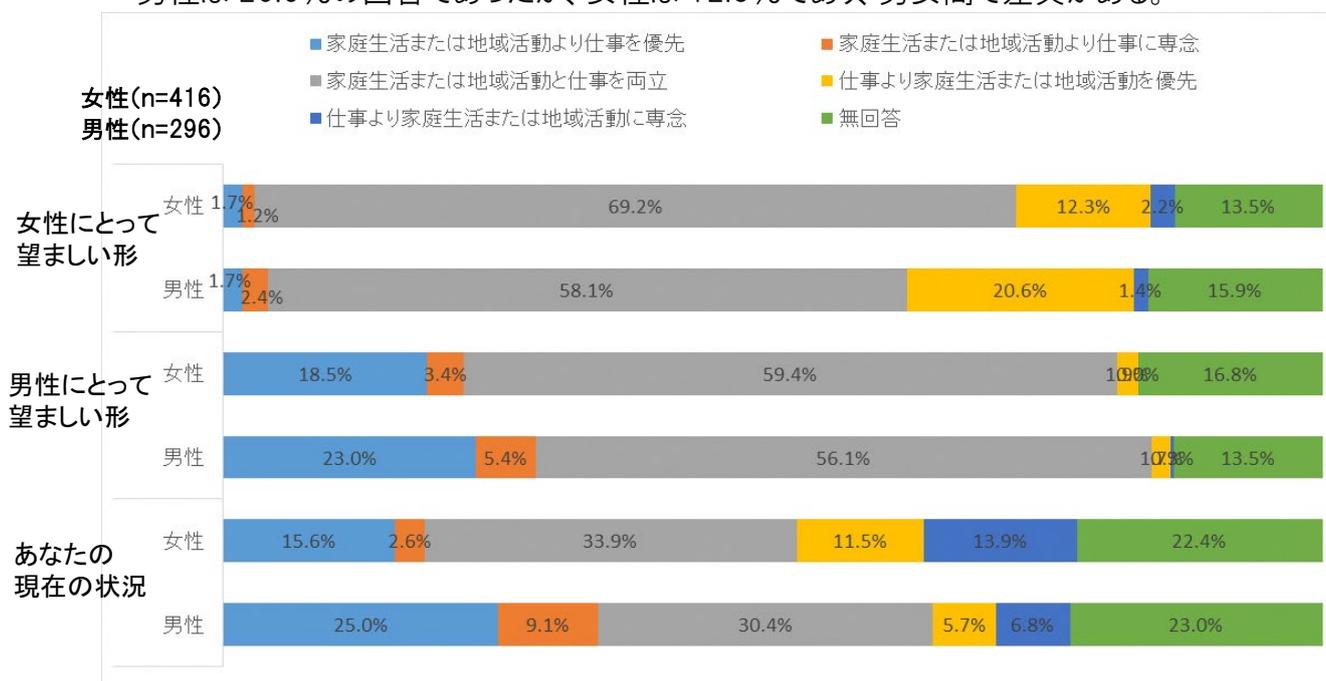
男女ともに「職場（経営者、同僚）の理解、支援の不足」が最も高かった。

男性より女性の方が「家計への影響」「育児、介護は女性がするものだという風潮」との回答が多い傾向がある。



問18 ワーク・ライフ・バランスについて、どのようなバランスがよいと思いますか。

女性にとって望ましい形として、「仕事より家庭生活または地域活動を優先」について男性は 20.6%の回答であったが、女性は 12.3%であり、男女間で差異がある。



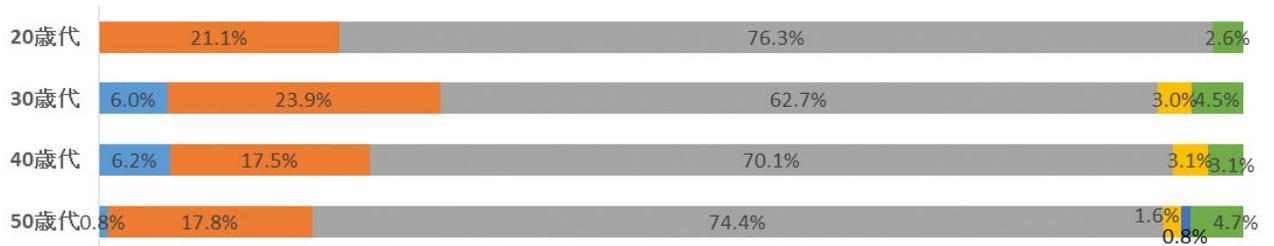
女性にとって望ましい形

- 家庭生活または地域活動より仕事に専念 ■ 家庭生活または地域活動より仕事を優先
- 家庭生活または地域活動と仕事を両立 ■ 仕事より家庭生活または地域活動を優先
- 仕事より家庭生活または地域活動に専念 ■ 無回答



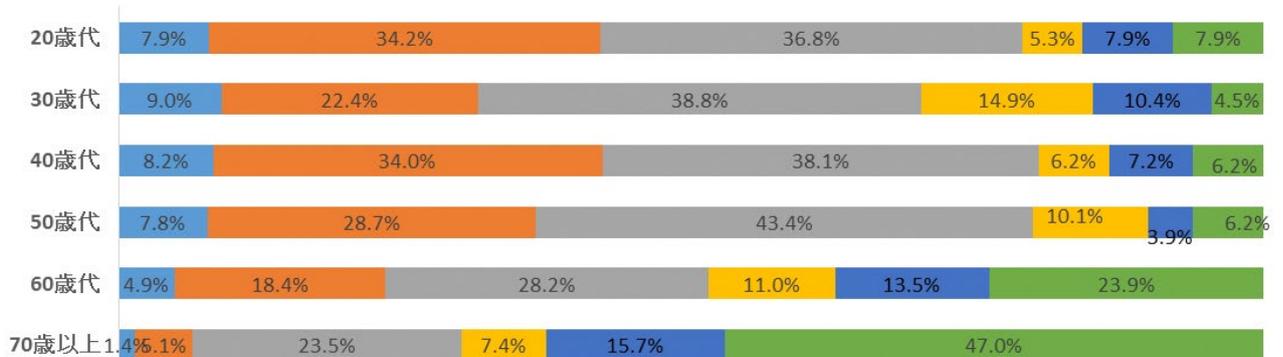
男性にとって望ましい形

- 家庭生活または地域活動より仕事に専念 ■ 家庭生活または地域活動より仕事を優先
- 家庭生活または地域活動と仕事を両立 ■ 仕事より家庭生活または地域活動を優先
- 仕事より家庭生活または地域活動に専念 ■ 無回答



あなたの現在の状況

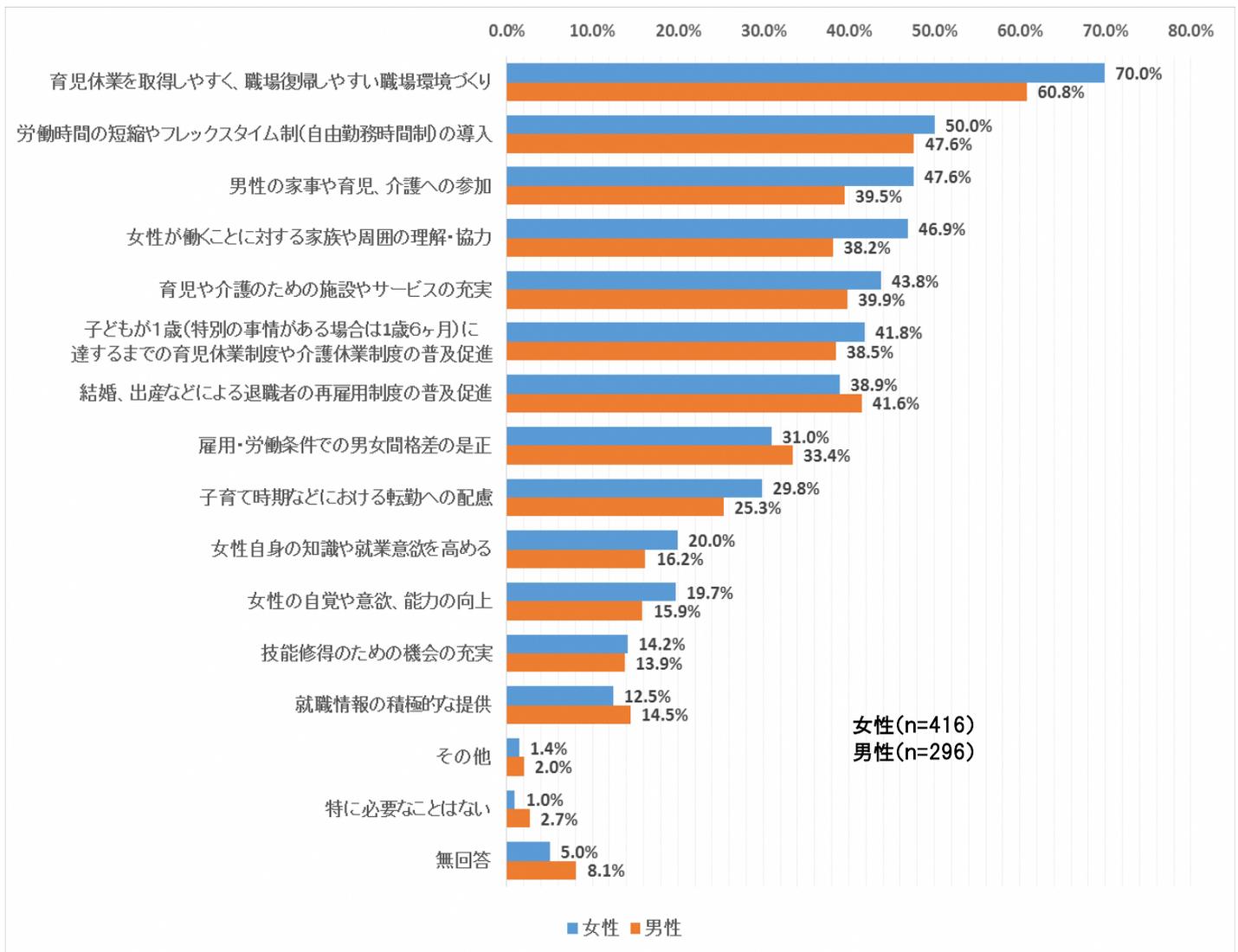
- 家庭生活または地域活動より仕事に専念 ■ 家庭生活または地域活動より仕事を優先
- 家庭生活または地域活動と仕事を両立 ■ 仕事より家庭生活または地域活動を優先
- 仕事より家庭生活または地域活動に専念 ■ 無回答



20代(n=38) 30代(n=67) 40代(n=97) 50代(n=129) 60代(n=163) 70代(n=217)

問19 男女ともに「仕事と家庭の両立」を実現させるためには、どのような事が必要だと思いますか。（複数回答）

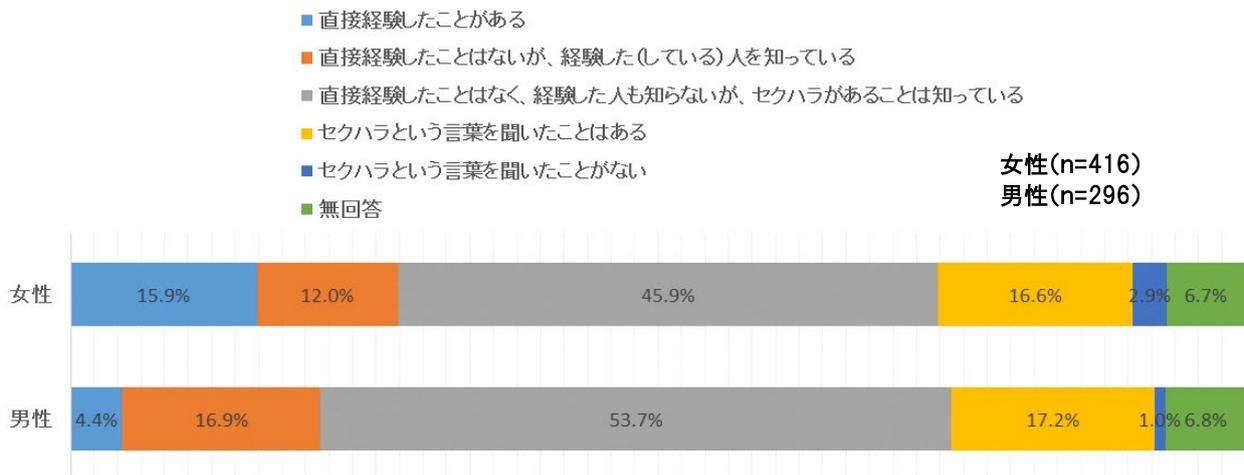
男女ともに、「育児休業を取得しやすく、職場復帰しやすい職場づくり」が最も高く、次いで「労働時間の短縮やフレックスタイム制の導入」の順になっている。



4. 人権(セクハラ・DV)について

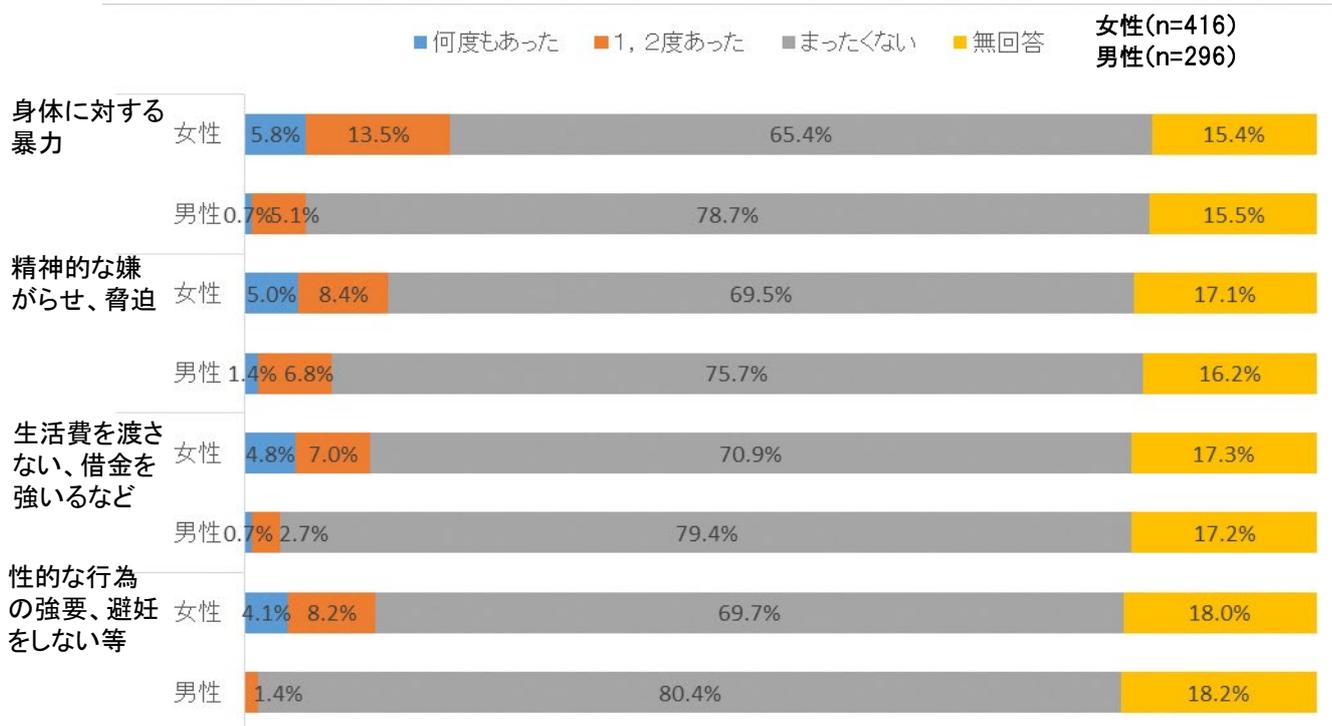
問20 あなたはセクハラについて、経験したり、見聞きしたことがありますか。

女性の方が「直接経験したことがある」と回答した人が多くなっている。



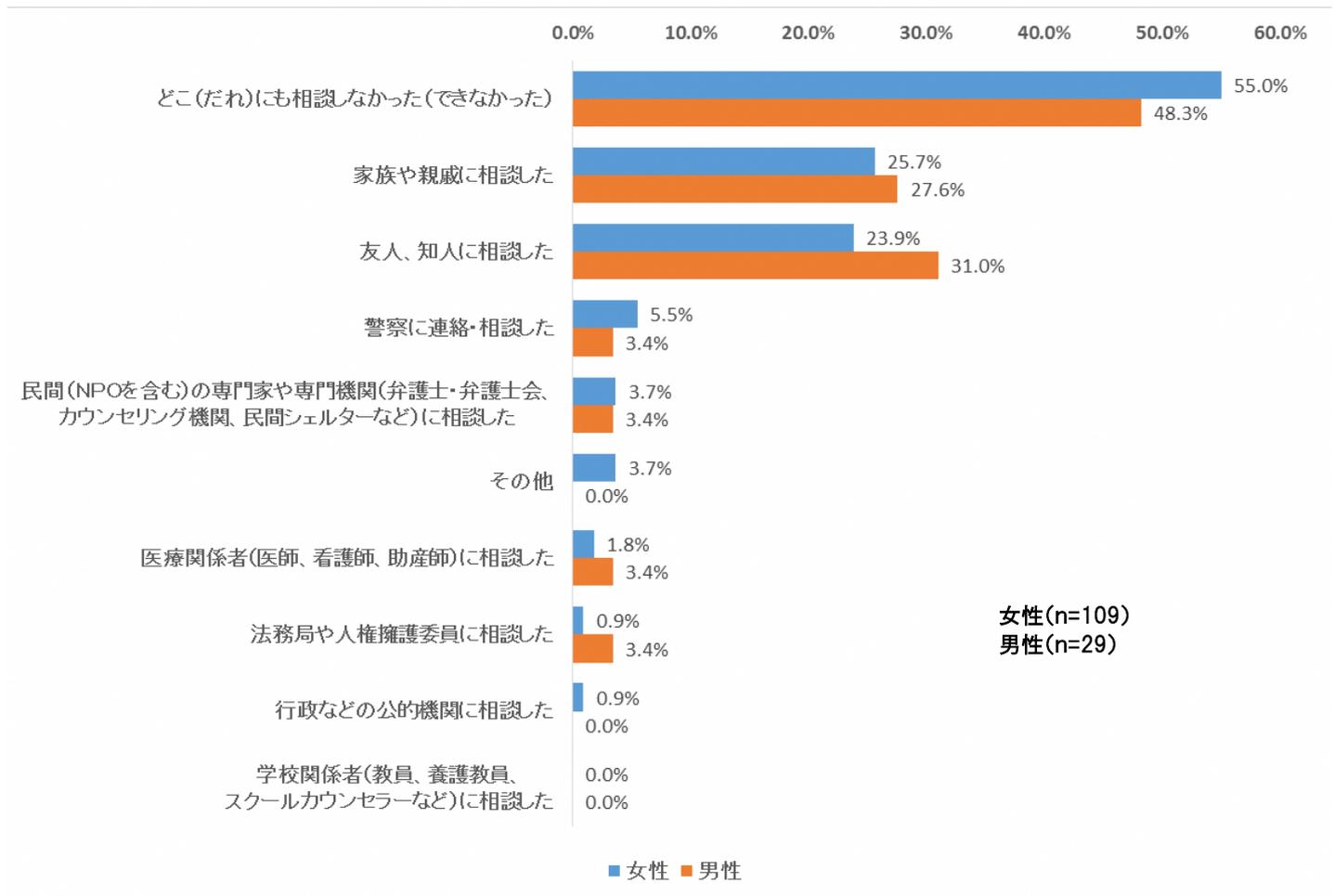
問21 あなたは配偶者(パートナー)から次のことをされたことがありますか。

すべての項目において、女性の方が「何度もあった」「1, 2度あった」と回答する人が多かった。



**問21-1 問21で1つでも「何度もあった」「1, 2度あった」と回答した人のみ
お答えください。あなたはそのことを誰かに打ち明けたり相談したり
しましたか。 (複数回答)**

男女ともに、どこ(だれ)にも相談しなかった(できなかった)が最も多くなっている。
男性の方が女性より、「家族や親せきに相談した」「友人・知人に相談した」割合が高い。



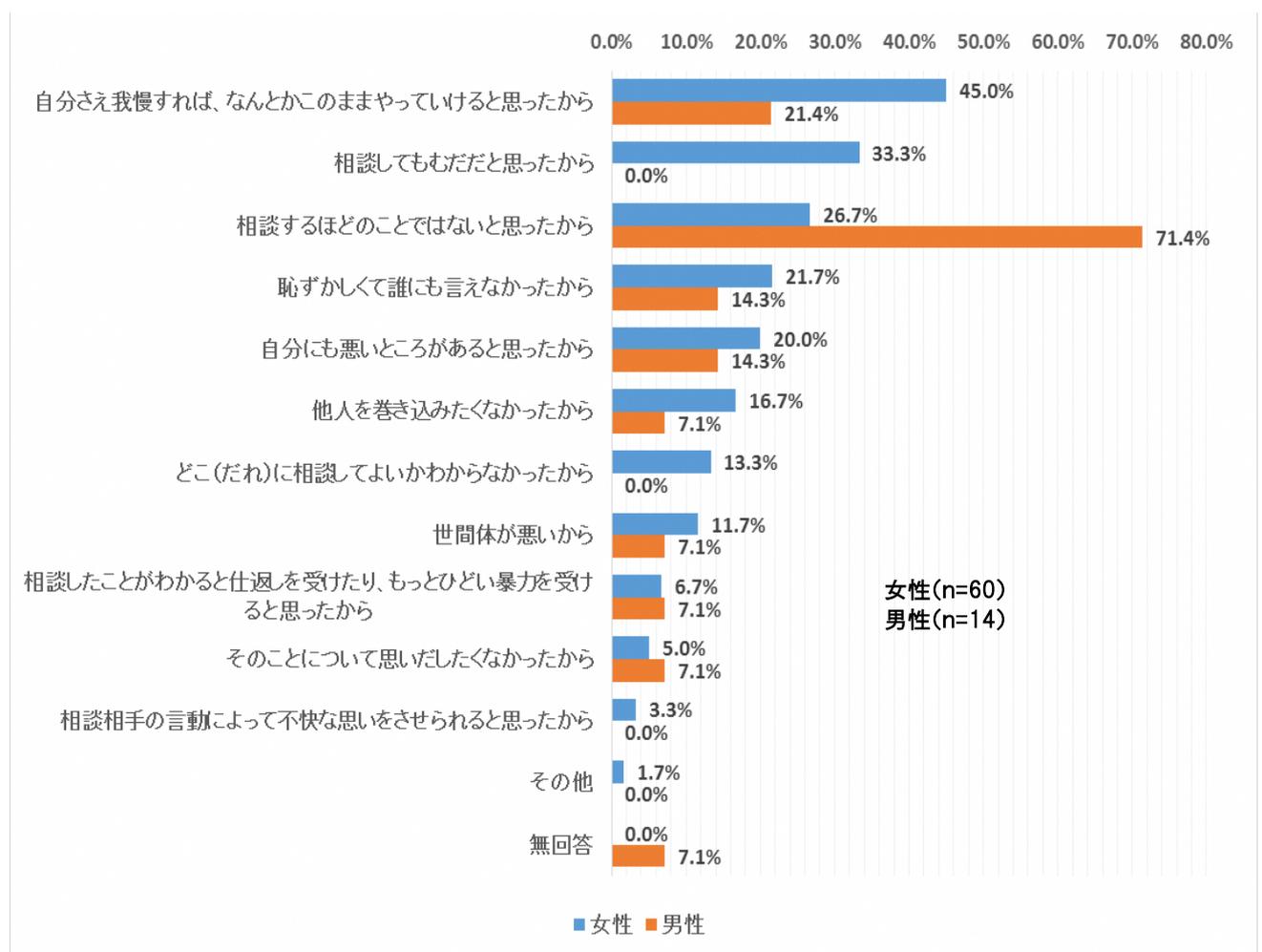
問21-2 問 21-1 で「どこ(だれ)にも相談しなかった(できなかった)」と回答した方のみお答えください。

あなたが相談しなかったのはなぜですか。 (複数回答)

女性では「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」という回答が最も多く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」の順になっている。

男性は「相談するほどのことではないと思ったから」という回答が最も多く、次いで「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」の順になっている。

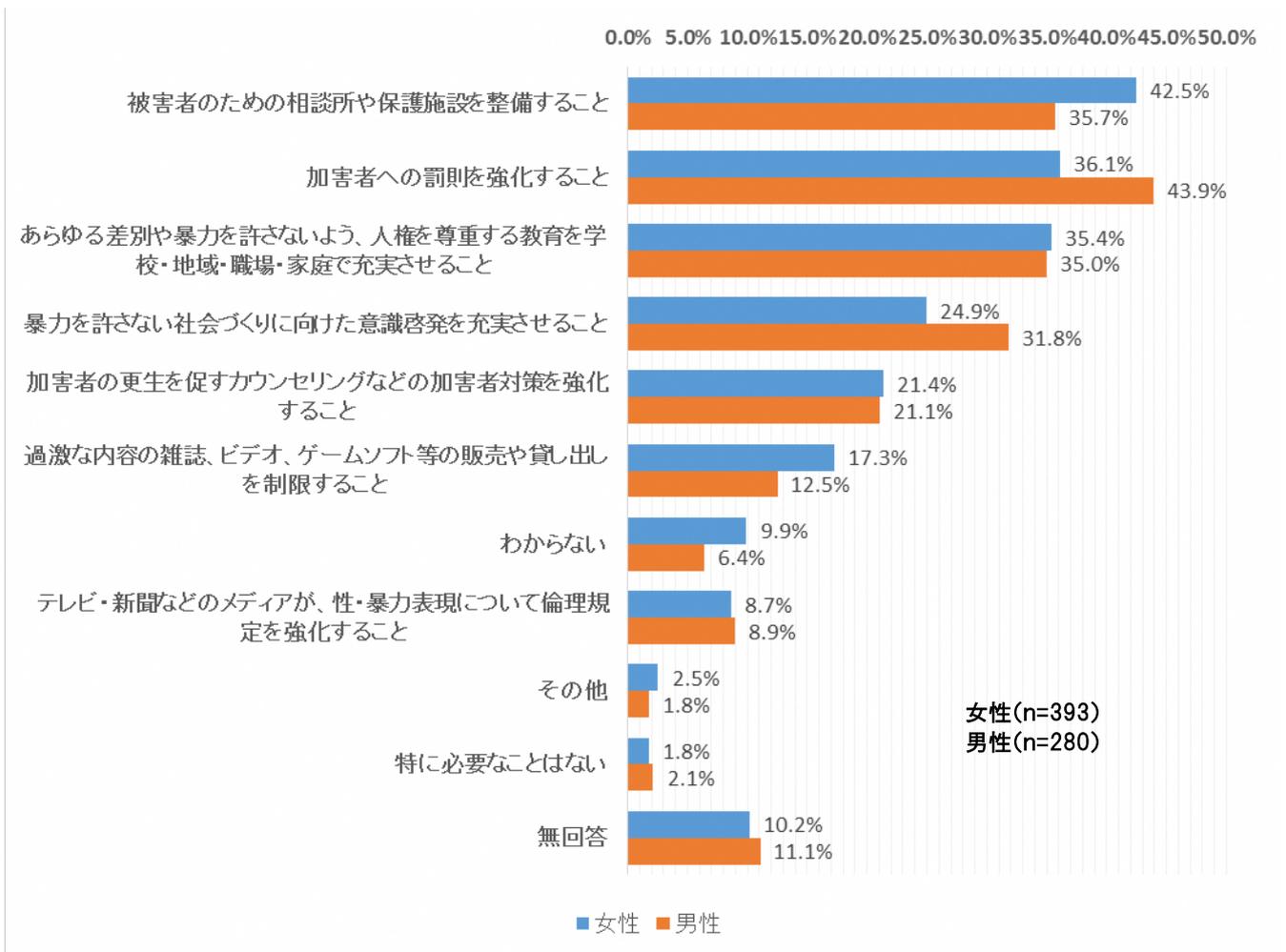
「相談しても無駄だと思ったから」は女性では2番目に多かったが、男性では回答した人がいなかった。



問22 あなたはセクハラや配偶者等からの暴力を防止するためにどのような事が必要だと思いますか(3つまで) ※3つ以上の回答者を除く

女性では「被害者のための相談所や保護施設を整備すること」が42.5%で最も高く、次いで「加害者への罰則を強化すること」が36.1%となっている。

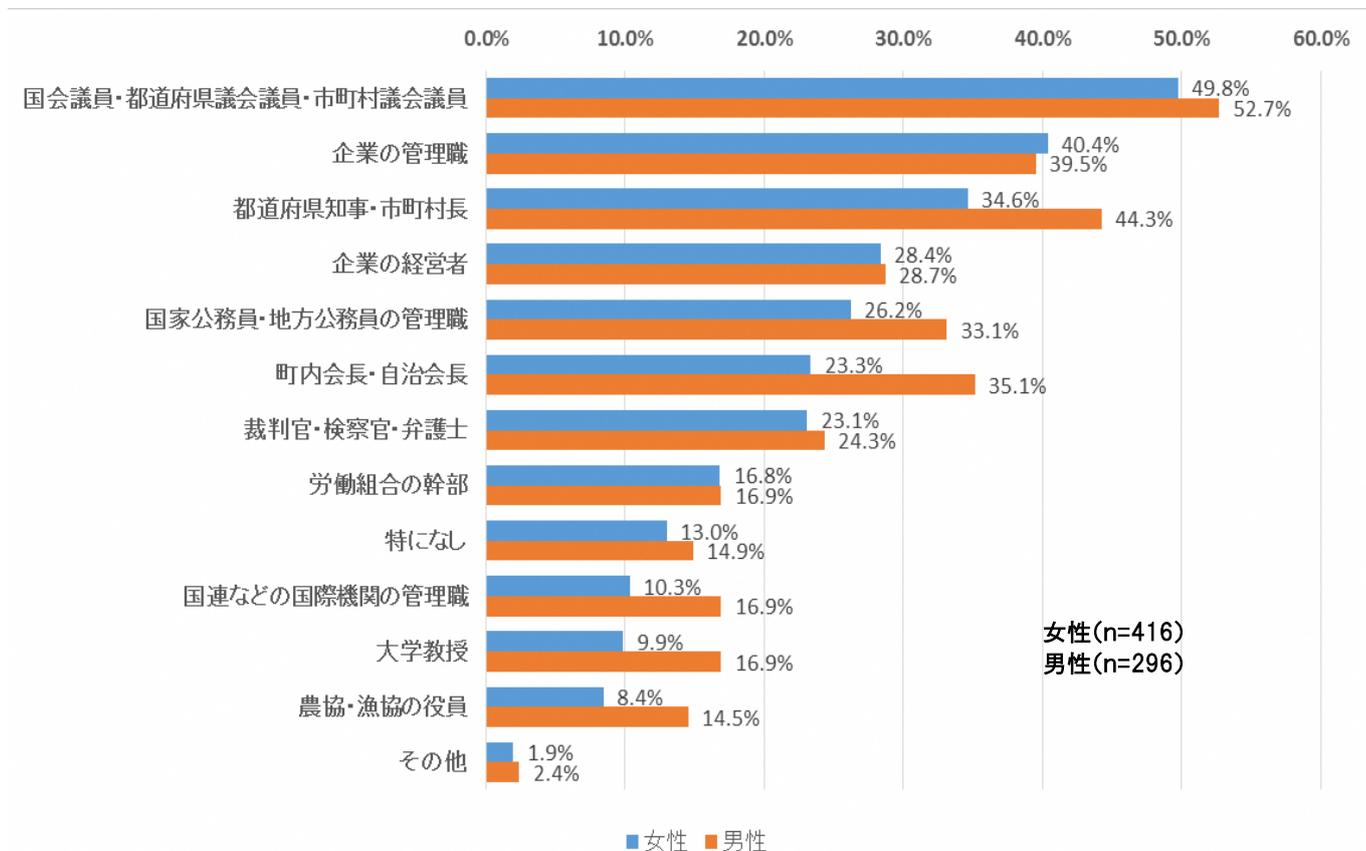
一方、男性では「加害者への罰則を強化すること」が43.9%で最も高く、次いで「被害者のための相談所や保護施設を整備すること」が35.7%の順になっている。



5. 女性の活躍推進・男女共同参画社会づくり

問23 政策・方針の決定にかかる役職において、あなたは今後どのような分野に女性が増える方が良いと思いますか。(複数回答)

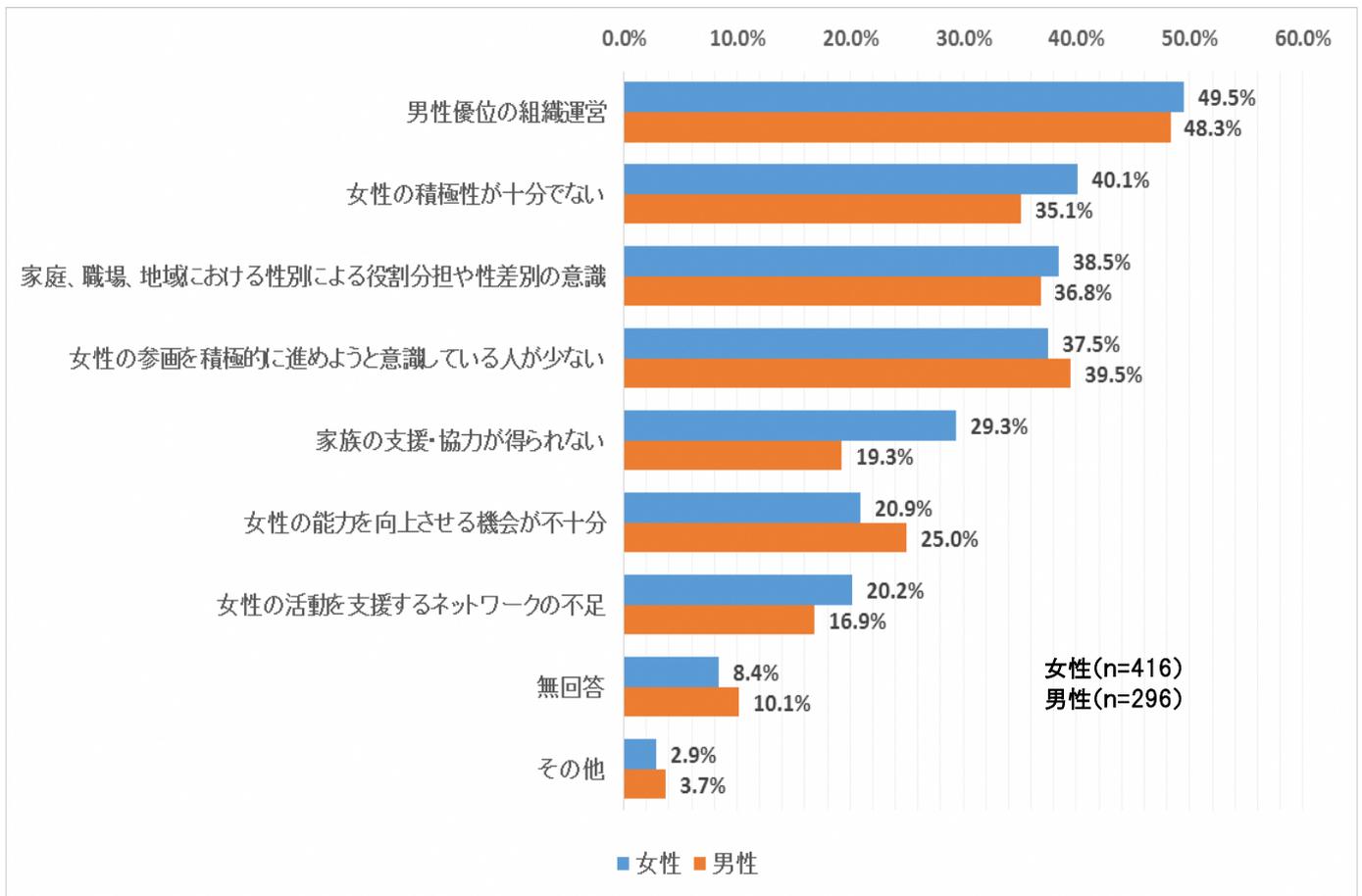
男女ともに、「国会議員、都道府県議会議員、市町村議会議員」が最も多くなっている。女性では、「企業の管理職」という回答が2番目に多いが、男性では「都道府県知事・市町村長」が2番目に多くなっている。



問24 女性の社会進出は進みつつあるものの、町内会や自治会の長、審議会委員や議員などには、まだ女性が就くことが少ない現状です。このような企画や方針を検討していくような場への女性の参画が少ない理由についてどう考えますか。（複数回答）

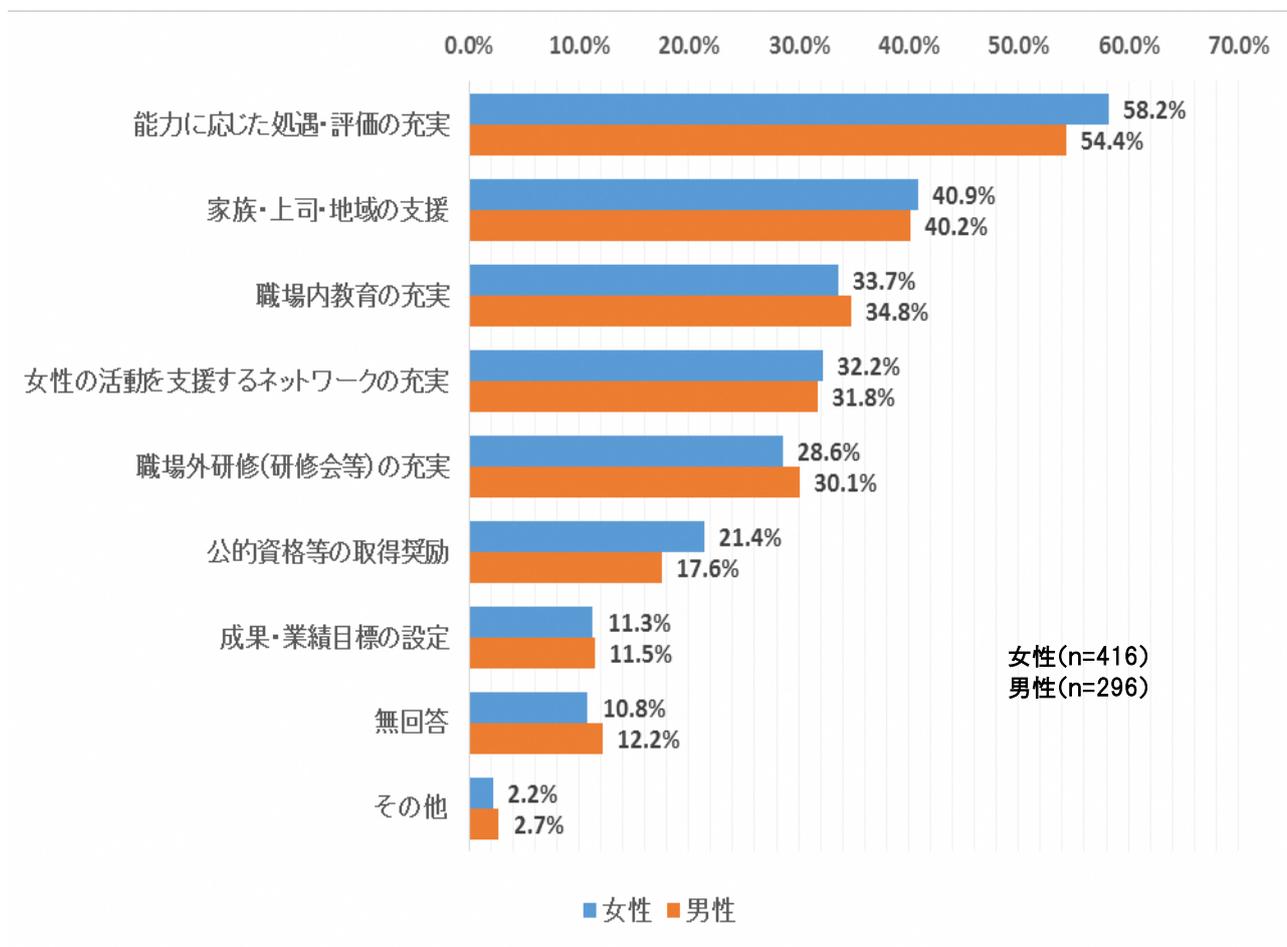
男女ともに、「男性優位の組織運営」との回答が最も多くなっている。

女性では、「女性の積極性が十分でない」と回答した方が2番目に多いが、男性では「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」が2番目に多くなっている。



問25 女性が企画や方針を決定していくような場へ参画するためには、女性の人材育成が重要になります。女性の能力を向上させるためにはどんな取り組みが必要だと思いますか。（複数回答）

男女ともに、「能力に応じた処遇・評価の充実」が最も高く、次いで「家族・上司・地域の支援」の順になっている。



問26 あなたは、男女共同参画社会の実現を目指して、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(3つまで)

※3つ以上の回答者は除く

女性では「子育てや介護の負担を軽くするため、それぞれに関する施設や制度を充実させる」が47.5%と最も高く、次いで「長時間労働の見直しや在宅勤務の普及など、働き方に対する意識啓発を行う」の順になっている。

一方、男性では「地域や企業に対して、さまざまな機会を利用して女性活躍推進や男女共同参画の意識啓発を行う」が最も高く、次いで「子育てや介護の負担を軽くするためそれぞれに関する施設や制度を充実させる」の順となっている。

